平成 23 年度

# 事業報告書

日本赤十字社静岡県支部

－目　　次 －

Ⅰ　支部事業・一般会計決算概要 …… 1
　１．災害救護事業 …… 1
　２．赤十字看護師の養成事業 …… 9
　３．赤十字講習の普及活動 …… 10
　４．赤十字奉仕団活動 …… 18
　５．青少年赤十字活動 …… 28
　６．社会福祉活動 …… 34
　７．国際活動 …… 35
　８．社業振興事業 …… 37
　９．評議員会 …… 42
　１０．一般会計決算概要 …… 43

Ⅱ　医療事業・医療施設特別会計決算概要 …… 46
　１．静岡赤十字病院 …… 46
　２．浜松赤十字病院 …… 48
　３．引佐赤十字病院 …… 50
　４．伊豆赤十字病院 …… 52
　５．裾野赤十字病院 …… 54

Ⅲ　血液事業・血液施設特別会計決算概要 …… 56
　１．静岡県赤十字血液センター …… 56

Ⅳ　資　　料 …… 60
　１．静岡県支部役職員名簿・奉仕者組織役員名簿 …… 60
　２．平成 23 年度主要行事一覧 …… 65
　３．日本赤十字社静岡県支部の機構及び沿革 …… 67
　４．日本赤十字社静岡県支部施設一覧 …… 70
　５．医療施設概況 …… 71

# Ⅰ　支部事業・一般会計決算概要

## 1　災 害 救 護 事 業

災害によって被害を受けた人々を救護する活動は、日本赤十字社本来の使命に基づいた事業の一つである。このため、災害救助法にも国・県または市町の行う救助業務に協力するよう義務づけられ、災害対策基本法においても指定公共機関として、防災業務計画の策定及び防災訓練の実施等が義務づけられている。

特に静岡県は、大規模地震対策特別措置法によって、県下全域が地震防災対策強化地域に指定されているので、地震防災強化計画を定めている。静岡県支部では、これら非常事態の発生の場合、いつでもこれに対処できるよう、常に救護組織、救護装備の整備及び救護班の訓練を行い、救護体制の確立に努めている。加えて、国民保護法に基づき武力攻撃事態等には「日本赤十字社静岡県支部国民保護救護計画」により国民保護措置等を円滑に実施できるよう努めている。

また、日常の火災や風水害等による住家の全焼、全壊等の被災者に対し、救援物資を交付するなどの活動を続けている。

平成２３年３月１１日に発生した東日本大震災に対して、発災直後から平成２３年６月までに救護班１８個班を岩手県、宮城県に派遣するなど災害救護活動を行った。

### （1）　救護組織

#### ①　災害対策本部要員の配置

大規模地震や風水害が発生した場合、災害対策本部を設置し、救護業務を迅速かつ適切に処理する必要があるので、静岡県支部及び静岡県内各施設に災害対策本部要員を配置している。

#### ②　常備救護班の編成

日本赤十字社には、全国に４９５個班の常備救護班が編成されている。静岡県支部では、日本赤十字社救護規則及び静岡県地域防災計画に基づき、５つの赤十字病院に１０個班の常備救護班と３つの血液センターに６個班の血液供給班を編成し、非常災害時の救護活動を行うこととしている。

・常備救護班

| 施　設　名 | 救護班数（班） | 救　護　班　要　員（人） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 医師 | 看護師長 | 看護師 | 助産師 | 薬剤師 | 主事 | 計 |
| 静岡赤十字病院 | 4 | 4 | 4 | 16 | 1 | 4 | 9 | 38 |
| 浜松赤十字病院 | 3 | 3 | 3 | 9 | 1 | 3 | 6 | 25 |
| 引佐赤十字病院 | 1 | 1 | 1 | 4 | | 1 | 2 | 9 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 伊豆赤十字病院 | 1 | 1 | 1 | 2 | | 1 | 2 | 7 |
| 裾野赤十字病院 | 1 | 2 | 1 | 4 | 1 | 1 | 2 | 11 |
| 合　　計 | 10 | 11 | 10 | 35 | 3 | 10 | 21 | 90 |

・血液供給班

| 施　　設　　名 | 血液供給班数（班） | 血液供給要員（人） |
|---|---|---|
| 静岡県赤十字血液センター | 2 | 4 |
| 静岡県沼津赤十字血液センター | 2 | 3 |
| 静岡県浜松赤十字血液センター | 2 | 3 |
| 合　　計 | 6 | 10 |

### ③　赤十字防災ボランティア

近年、自主的できめ細かな防災ボランティア組織が活躍をしている。日本赤十字社は、災害救護活動に参加、協力しようとするボランティアの連絡調整機関としての機能充実が、各方面から期待されており、災害救助法においても協力を求められる事項の一つとされている。

本年度、本社において防災ボランティア・リーダー養成研修会が開催され、静岡県支部からは、３名の防災ボランティア地区リーダーが参加した。これによって新たな防災ボランティア・リーダー３名が誕生し、総勢１４人となった。このほかに地区リーダーは３６名、防災ボランティアは５７名が登録されている。

また、災害時に円滑な救護活動を行うためには、身辺の被害状況や道路状況等の情報収集が重要であることから、アマチュア無線を使用した災害時情報収集網を構築するため、アマチュア無線技士の資格を所有する赤十字防災ボランティア等に無線機を貸与する事業を開始、２２台を整備した。

アマチュア無線技士の有資格者に貸与された無線機

## （２）　災害救護活動

平成２３年３月１１日に三陸沖を震源としたマグニチュード９．０の「平成２３年東北地方太平洋沖地震」が発生。宮城県栗原市で最大震度７を記録したのをはじめ、東北、関東地方の広い地域で震度６弱以上の強い揺れに見舞われ、またこの地震により大津波が発生した。この地震によって、東北地方や関東地方の太平洋沿岸を中心に壊滅的な被害があり、多くの人的及び物的被害が発生した。日本赤十字社は発災当日、全国の赤十字病院か

ら５５の救護班が被災地に向けて出動した。９月末までの派遣の間、岩手県、宮城県、福島県の３県を中心に８７，０００人以上を診療した。被災地に派遣された救護班総数は、全国の赤十字病院から８２１班6，５００人以上となった。

静岡県支部でも地震発生当日に救護班２個班と支部連絡調整員を岩手県に派遣した。平成２３年４月以降は１０個班７２人の救護班、3個班のこころのケア要員を現地に派遣した他、併せて、被災した石巻赤十字病院への支援要員の派遣などを行った。

また、平成２３年３月１４日から義援金の受付を速やかに始め、現在も多くの県民から協力を得ている。

・救護班の派遣

| | | 編成病院 | 活動場所 | 日程 | 救護班人　数 | ボランティア | 血セ等調整員 | 支部調整員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 岩手県 | 第 1 次 | 静岡病院 | 盛岡市 | 3/11-3/16 | 10 | | | 2 |
| | | 浜松病院 | 釜石市 | 3/11-3/16 | 8 | | | |
| | 第 2 次 | 静岡病院 | 釜石市<br>大槌町 | 3/14-3/18 | 8 | | 2 | 2 |
| | 第 3 次 | 浜松病院 | | 3/16-3/20 | 7 | 3 | 2 | 2 |
| | 第 4 次 | 裾野・伊豆病院 | | 3/18-3/22 | 8 | 1 | 2 | 2 |
| | 第 5 次 | 静岡病院 | | 3/20-3/24 | 9 | | 2 | 2 |
| | 第 6 次 | 浜松病院 | | 3/23-3/28 | 7 | | 2 | 2 |
| | 第 7 次 | 静岡病院 | | 3/26-3/30 | 7 | 3 | 2 | 2 |
| 宮城県 | 第 8 次 | 静岡病院 | 石巻市 | 4/3-4/7 | 8 | | | 2 |
| | 第 9 次 | 浜松・引佐病院 | | 4/6-4/10 | 7 | | 1 | 1 |
| | 第 10 次 | 静岡病院 | | 4/15-4/19 | 7 | | | 2 |
| | 第 11 次 | 浜松・引佐病院 | | 4/17-4/21 | 7 | | | 2 |
| | 第 12 次 | 静岡病院 | | 4/22-4/26 | 7 | | | 1 |
| | 第 13 次 | 裾野・伊豆病院 | | 4/25-4/29 | 7 | | | 1 |
| | 第 14 次 | 静岡病院 | | 5/12-5/17 | 7 | | | |
| | 第 15 次 | 浜松病院 | | 5/15-5/20 | 7 | | | 2 |
| | 第 16 次 | 浜松病院 | | 6/19-6/24 | 7 | | | |
| | 第 17 次 | 静岡病院 | | 6/23-6/28 | 8 | | | |
| 合計 | | 17 次（18 班） | 延べ派遣人数 181 名 | | 136 | 7 | 13 | 25 |

＊救護班は、医師、看護師、薬剤師、事務職員で構成

・こころのケア要員の派遣

| | | 編成病院 | 活動<br>場所 | 日程 | 救護班<br>人　数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 宮城県 | 第１次 | 静岡・浜松病院 | 石巻市 | 6/2-6/7 | 4 |
| | 第２次 | 浜松・伊豆・引佐病院 | | 7/4-7/9 | 4 |
| | 第３次 | 支部事務局 | | 8/7-8/11 | 3 |

＊こころのケア要員は、看護師、事務職員で構成

・本社広報活動支援要員派遣・石巻赤十字病院への支援職員派遣

５月２日～９日まで、本社広報活動支援要員として職員を１名福島県に派遣したほか、石巻赤十字病院へ下記のとおり１９名の支援員の派遣を行った。

| 看護師・助産師 | 薬　剤　師 | 臨床工学技師 | 事 務 職 員 | 合　　計 |
|---|---|---|---|---|
| 10 | 5 | 1 | 3 | 19 |

〇災害救援物資の配付

・安眠セット　２００個　（福島県支部へ）

〇義援金の受付（義援金名：東日本大震災義援金）

・受付期間　平成２３年３月１４日（月）から平成２４年９月３０日(日)まで

・受付方法　郵便振替、銀行振込又は静岡県内の赤十字施設・各市区町の日赤担当窓口

・義援金額（平成２３年３月１４日～平成２４年３月３１日受付額）

| 本社受付総計 | 314,618,250,808 円 |
|---|---|
| 静岡県支部扱い（再掲） | 4,745,873,227 円 |

▲津波被害を受けた石巻市内の
ショッピングセンター

▲　避難所となっている体育館

▲石巻市立渡波小学校の保健室に開設された臨時救護所

▲避難所となっている体育館での救護活動

▲避難所での巡回診療

▲盛岡赤十字病院でのミーティング

**（３）　災害救援品配分状況及び災害死亡者弔慰金の交付状況**

県内で発生した火災、風水害等による被災者に対して、地区分区を通じて毛布、緊急セット、タオルセット、下着セットの救援物資や災害死亡者弔慰金を交付した。

本年度の配分及び交付状況は、下表のとおりである。

| 地区分区名 | 世帯数 | 人　員 | 毛　布 | 緊急セット | タオルセット | 下着セット | 災害死亡者弔慰金(円) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 伊東市 | 7 | 9 | 12 | 8 | 12 | 6 | |
| 伊豆市 | 1 | 2 | 2 | 1 | 2 | | |
| 伊豆の国市 | 6 | 17 | 17 | 5 | 15 | 8 | |
| 三島市 | 4 | 7 | 7 | 5 | 7 | 7 | |
| 裾野市 | 2 | 5 | 3 | 2 | 5 | 5 | |
| 富士宮市 | 5 | 13 | 12 | 5 | 12 | 12 | 10,000 |
| 富士市 | 6 | 14 | 11 | 6 | 11 | | |
| 静岡市清水区 | 16 | 31 | 35 | 29 | 51 | 72 | |
| 静岡市葵・駿河区 | 30 | 70 | 42 | 28 | 45 | 58 | 10,000 |

| 焼津市 | 4 | 7 | 9 | 4 | 11 | 9 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 藤枝市 | 6 | 18 | 11 | 7 | 17 | 11 | |
| 島田市 | 4 | 11 | | 4 | 3 | 3 | |
| 牧之原市 | 4 | 15 | 9 | 5 | 13 | 11 | 20,000 |
| 御前崎市 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 掛川市 | 1 | 1 | | | | | 10,000 |
| 菊川市 | 1 | 2 | 2 | 1 | 2 | 2 | |
| 磐田市 | 8 | 14 | 19 | 9 | 15 | 17 | |
| 浜松市中区 | 10 | 17 | 22 | 9 | 19 | 11 | |
| 浜松市東区 | 5 | 10 | 17 | 5 | 10 | 9 | |
| 浜松市南区 | 4 | 11 | 8 | 3 | 10 | 8 | 10,000 |
| 浜松市浜北区 | 2 | 6 | 5 | 2 | 5 | 5 | |
| 浜松市天竜区 | 21 | 71 | 71 | 25 | 71 | 70 | |
| 松崎町 | 2 | 8 | 2 | 2 | | | |
| 函南町 | 1 | 2 | 2 | 1 | 2 | 2 | |
| 長泉町 | 1 | 2 | 2 | 1 | 2 | 2 | |
| 小山町 | 1 | 6 | 6 | 1 | 6 | 6 | |
| 川根本町 | 6 | 21 | 4 | 8 | 6 | 5 | |
| 森町 | 3 | 17 | 10 | 6 | 17 | 17 | |
| | 162 | 408 | 341 | 183 | 370 | 357 | 60,000 |

### （4）　災害救護訓練

東海地震を想定した静岡県内の訓練はもとより、第３ブロック（東海、北陸、長野)支部と協働した訓練、 近隣支部間の相互支援体制の確立や、他の防災関係機関との連携を図ることを目的として、次の訓練に参加し、救護員の資質向上に努めた。

| 訓練名 | 開催月日 | 主催 | 会場 | 参加者数 |
|---|---|---|---|---|
| dERU 展開訓練 | 平成 23 年 8 月 16 日 | 静岡県支部<br>静岡赤十字病院 | 駿府公園 | 静岡赤十字病院 19 人<br>浜松赤十字病院 3 人<br>裾野赤十字病院 3 人<br>伊豆赤十字病院 3 人<br>引佐赤十字病院 1 人<br>防災ボランティア 8 人<br>静岡県支部 4 人 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 静岡県・島田市・牧之原市・吉田町・川根本町総合防災訓練 | 平成 23 年 8 月 28 日 | 静岡県・島田市・牧之原市・吉田町・川根本町 | 静岡県・島田市・牧之原市・吉田町・川根本町 | 静岡赤十字病院 10 人<br>静岡県支部 4 人 |
| 地震防災対策オペレーション 2012 | 平成 24 年 1 月 17 日 | 静岡県庁 | 静岡県庁 | 静岡県支部 2 人 |
| 第 3 ブロック支部合同<br>災害救護訓練 | 平成 23 年 11 月 1 日～<br>平成 23 年 11 月 2 日 | 富山県支部 | 富山市 | 浜松赤十字病院 4 人<br>静岡県支部 3 人 |
| 静岡県支部<br>図上訓練 | 平成 24 年 3 月 22 日 | 静岡県支部 | 静岡県支部 | 静岡県支部 18 人 |
| 赤十字飛行隊<br>関東・静岡地区集合訓練 | 平成 24 年 3 月 24 日 | 赤十字飛行隊 | 富士川滑空場 | 静岡県支部 2 人 |

## （５）　災害救援物資の備蓄及び救護装備・資材の整備

### ①　災害救援物資の備蓄

火災、風水害、地震等の罹災者に配付する救援物資（毛布、緊急セット、タオルセット）を備蓄している。本年度末の備蓄状況は、次のとおりである。

| 品目<br>倉庫名 | 毛　布<br>（枚） | 緊急セット<br>（個） | タオルセット<br>（個） | 下着セット<br>（個） |
|---|---|---|---|---|
| 静　岡　県　支　部 | 760 | 708 | 1,240 | 4,000 |
| 伊豆赤十字病院倉庫 | 1,000 | | 400 | |
| 引佐赤十字病院倉庫 | 250 | 54 | 520 | |
| 沼津血液センター倉庫 | 300 | | 300 | |
| 浜松血液センター倉庫 | 250 | 18 | 470 | |
| 合　　　計 | 2,560 | 780 | 2,930 | 4,000 |

### ②　救護装備・資材の整備

静岡県支部では、災害時に備え、以下の車両（献血運搬車含む）及び資機材を整備している。

| 品名 | 支部 | 病院 | 血液<br>センター | 地区<br>分区 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 車両 | 9 | 23 | 19 | 88 | 139 |
| 医療セット | 2 | 10 | | | 12 |
| 携帯型医療セット | 1 | 5 | | | 6 |
| テント | 10 | 5 | 3 | 218 | 236 |
| エアテント | 4 | 5 | | | 9 |

| 担架 | | 32 | 22 | | 531 | 585 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 折畳寝台 | | 49 | 120 | 15 | 337 | 521 |
| 発電機 | | 10 | 10 | 5 | 158 | 183 |
| 投光器 | | 8 | 5 | 6 | 158 | 177 |
| 浄水機 | | 2 | | | | 2 |
| 衛星電話 | | 3 | | | | 3 |
| 災害時優先電話（回線数） | 固定電話 | 2 | | | | 2 |
| | 携帯電話 | 2 | | | | 2 |

## （６）　国内義援金の受付状況

国内に大災害が発生したときは、本社や関係機関との協議によって義援金の受付募集を行っている。本年度末までに、静岡県支部管内施設及び地区分区窓口に寄せられた義援金は、次のとおりである。

（単位：円）

| 災　　害　　名 | 受付金額 | 送金先支部 |
|---|---|---|
| 平成 23 年 7 月新潟県豪雨義援金 | 336,390 | 新潟県支部 |
| 福島県豪雨義援金 | 332,026 | 福島県支部 |
| 奈良県台風 12 号災害義援金 | 162,386 | 奈良県支部 |
| 和歌山県平成 23 年台風 12 号災害義援金 | 526,079 | 和歌山県支部 |
| 台風 12 号三重県災害義援金 | 182,223 | 三重県支部 |
| 東日本大震災義援金（平成 23 年度受付分） | 4,280,864,574 | 本　社 |
| 合　　　　計 | 4,282,403,678 | |

## （７）　臨時救護の実施

静岡県支部に要請のあった公共的行事やスポーツ大会、高齢者・障害者(児)の団体が開催する諸行事等に臨時救護所を設け、赤十字看護奉仕団の協力を得て救護要員を派遣して、事故防止及び応急手当等救護活動を行った。

本年度の派遣状況は次のとおりである。

| 活　動　内　容 | 実施回数 | 実施延日数 | 派遣者数 | 救護者数 |
|---|---|---|---|---|
| 慰霊祭等救護 | 3 | 4 | 8 | 1 |
| 各種大会救護 | 2 | 2 | 4 | |
| 青少年対象行事救護 | 10 | 20 | 40 | 35 |
| その他各種行事救護 | 16 | 34 | 140 | 148 |
| 合　　　計 | 31 | 60 | 192 | 184 |

## ２　赤十字看護師の養成事業

日本赤十字社は、赤十字の使命とする救護活動に必要な赤十字看護師の養成確保を目的として、赤十字看護師として必要な知識と技術を修得させ、救護活動に貢献できる者を育成している。近年の医療技術の高度化と専門化にも対応できる質の高い看護師が求められており、こうした社会的変化に対応するため、全国に看護教育施設を設置し、看護師を養成している。

静岡県支部では、愛知県豊田市にある日本赤十字豊田看護大学に在学する看護学生に奨学金を貸与し、赤十字看護師を養成している。本年度は、静岡県支部長推薦看護学生３７人が在学し、この３月に４年生（第五期生）１０人が卒業し県内施設に入職した。

また、将来の幹部看護師の養成に役立てるために、本社及び県看護協会が実施する研修に参加する看護師の一部経費を助成した。

・学年別学生数（23 年度）　（人）

| 1 年 | 2 年 | 3 年 | 4 年 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 9 | 11 | 7 | 10 | 37 |

▲日本赤十字豊田看護大学での実習の様子

## ３　赤十字講習の普及活動

健康で安全な生活を送るために必要な知識と技術を身につけることを目的とした救急法・水上安全法・健康生活支援・幼児安全法を、広く県民に普及するため、以下のとおり県下各地で講習会を開催した。

また、県内のＡＥＤ設置場所を明らかにし、心肺蘇生による救命率を高めるために、有事の際の供与が可能か否かを設置者に確認した上で､携帯端末やホームページから利用可能なＡＥＤの存在場所を検索できるシステムを構築し、公開している。

### （１）　救急法講習

救急法は、病気やけがや災害から自分自身を守り、急病人やけが人を正しく救助して医師または救急隊員に渡すまでの救命手当及び応急手当の知識と技術を習得する講習である。

本年度も各地区分区の協力を得て、一般県民を対象とする講習会の開催や、赤十字奉仕団、自主防災組織、自動車運転免許取得に必要な講習の指導者である自動車教習所の教官を対象とした応急救護処置講習(自動車教習所協会主催)等にボランティア及び職員指導員を派遣して普及に努めた。

本年度の救急員養成講習、基礎講習及び短期講習の実施状況は次のとおりである。

| 講　習　区　分 | 実施地区分区数 | 実施回数 | 受講人数（人） | 指導員数(延人) |
|---|---|---|---|---|
| 救急員養成講習 | 11 市 1 町 | 44 | 1,263 | 516 |
| 基礎講習 | 14 市 1 町 | 85 | 2,107 | 249 |
| 短期講習 | 22 市 4 町 | 286 | 10,572 | 571 |
| 資格継続研修 | 3 市 1 町 | 8 | 66 | 15 |
| 指導員養成講習 | 1 市 | 1 | 29 | 15 |
| 合計 | 23 市 4 町 | 424 | 14,037 | 1,366 |

### （２）　水上安全法講習

水上安全法は、水を活用して健康の増進を図り、水による事故を未然に防ぎ、溺れている人等を正しく救助するための知識や技術を習得する講習である。

本県は海岸線も長く、海水浴客も多いことから、毎年水による犠牲者が多い。

このため、広く一般県民を対象に、支部主催救助員養成講習（静岡県水泳連盟共催・静岡県教育委員会後援）をボランティア指導員の協力を得て開催し、また各地域等の要請による救助員養成講習、短期講習、資格継続研修にも指導員を派遣し普及に努めた。

本年度の救助員養成講習、短期講習の実施状況は次のとおりである。

| 講　習　区　分 | 実施地区分区数 | 実施回数 | 受講人数（人） | 指導員数（延人） |
|---|---|---|---|---|
| 救助員養成講習 | 4 市 | 4 | 88 | 152 |
| 短期講習 | 9 市 | 21 | 842 | 62 |
| 資格継続研修 | 3 市 | 4 | 32 | 8 |
| 合　　計 | 11 市 | 29 | 962 | 222 |

## （３）　健康生活支援講習

この講習は、超高齢化社会を迎えるにあたり、誰もが健やかな高齢期を過ごすために必要な知識、技術、考え方や、高齢者が自立して生活できるよう家庭や地域の中で支援・介護できる方法を学ぶもので、ボランテイア活動をするときにも役立つ内容である。

講習会は、健康生活支援講習支援員養成講習、短期講習、災害時高齢者生活支援講習に分かれており、各地区分区の協力を得て、赤十字奉仕団・高齢者を中心として広く一般県民を対象に講習を開催した。

本年度の支援員養成講習、短期講習、災害時高齢者生活支援講習、資格継続研修の実施状況は次のとおりである。

| 講　習　区　分 | 実施地区分区数 | 実施回数 | 受講人数(人) | 指導員数(延人) |
|---|---|---|---|---|
| 支援員養成講習 | 5 市 | 10 | 63 | 46 |
| 短期講習 | 12 市 4 町 | 47 | 1,342 | 54 |
| 災害時高齢者<br>生活支援講習 | 13 市 5 町 | 48 | 1343 | 98 |
| 資格継続研修 | 2 市 | 2 | 18 | 3 |
| 合　　計 | 17 市 5 町 | 107 | 2,759 | 306 |

## （４）　幼児安全法講習

幼児安全法は、こどもが家庭や地域で健やかに育っていくように、こどもの成長発達に伴う事故の予防と万一に備えての救命手当、応急手当の方法やこどもの看病についての知識と技術を習得する講習である。

各地区分区の協力を得て、赤十字奉仕団、保育に携わる職員、若い親などを中心に広く一般県民を対象として、主に県内赤十字施設（県支部・病院・血液センター）において講習を開催した。

本年度の支援員養成講習、短期講習、資格継続研修の実施状況は次のとおりである。

| 講　習　区　分 | 実施地区分区数 | 実施回数 | 受講人数(人) | 指導員数(延人) |
|---|---|---|---|---|
| 支援員養成講習 | 3 市 | 11 | 81 | 61 |
| 短期講習 | 16 市 2 町 | 47 | 1,229 | 60 |
| 資格継続研修 | 2 市 | 2 | 14 | 4 |
| 合　　計 | 16 市 2 町 | 60 | 1,324 | 86 |

（参考）

地区分区別赤十字講習会実施状況

①救急法講習

| 地区分区名 | 救急員養成講習 | | | 基　礎　講　習 | | | 短　期　講　習 | | | 資格継続研修 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 実施回数 | 受講人員 | 指導員 | 実施回数 | 受講人員 | 指導員 | 実施回数 | 受講人員 | 指導員 | 実施回数 | 受講人員 | 指導員 |
| 下田市 | | | | 1 | 13 | 1 | 1 | 75 | 4 | | | |
| 伊東市 | | | | 1 | 11 | 2 | 6 | 284 | 14 | | | |
| 熱海市 | 2 | 36 | 16 | 3 | 60 | 9 | | | | | | |
| 伊豆市 | 3 | 43 | 15 | 3 | 42 | 5 | 1 | 33 | 2 | | | |
| 伊豆の国市 | | | | | | | 4 | 94 | 11 | | | |
| 三島市 | 1 | 15 | 9 | 1 | 15 | 3 | 11 | 244 | 24 | | | |
| 沼津市 | 5 | 95 | 45 | 11 | 172 | 27 | 11 | 363 | 40 | 2 | 18 | 4 |
| 裾野市 | | | | | | | 4 | 148 | 10 | | | |
| 御殿場市 | | | | | | | 5 | 187 | 11 | | | |
| 富士宮市 | 1 | 20 | 7 | 2 | 107 | 14 | 5 | 115 | 8 | | | |
| 富士市 | 1 | 14 | 8 | 2 | 38 | 5 | 9 | 297 | 19 | | | |
| 静岡市 | 11 | 323 | 139 | 31 | 775 | 88 | 73 | 2,374 | 139 | 3 | 26 | 5 |
| 焼津市 | | | | 1 | 21 | 3 | 26 | 1,087 | 44 | | | |
| 藤枝市 | 4 | 279 | 120 | 6 | 311 | 29 | 19 | 583 | 28 | | | |
| 島田市 | 1 | 27 | 10 | 2 | 51 | 6 | 6 | 207 | 10 | | | |
| 牧之原市 | | | | | | | 7 | 126 | 13 | | | |
| 御前崎市 | | | | | | | 3 | 64 | 4 | | | |
| 掛川市 | | | | | | | 11 | 568 | 22 | | | |
| 菊川市 | | | | | | | 2 | 60 | 4 | | | |
| 袋井市 | | | | | | | 17 | 820 | 42 | | | |
| 磐田市 | 1 | 40 | 12 | 1 | 40 | 3 | 15 | 617 | 23 | | | |
| 浜松市 | 13 | 340 | 126 | 19 | 420 | 51 | 33 | 1,455 | 60 | 2 | 16 | 4 |
| 湖西市 | | | | | | | 1 | 68 | 4 | | | |
| 地区計 | 43 | 1,232 | 507 | 84 | 2,076 | 246 | 270 | 9,869 | 536 | 7 | 60 | 13 |
| 長泉町 | | | | | | | 3 | 155 | 4 | | | |
| 小山町 | | | | | | | 1 | 20 | 2 | | | |
| 吉田町 | 1 | 31 | 9 | 1 | 31 | 3 | 2 | 85 | 5 | 1 | 6 | 2 |
| 森町 | | | | | | | 10 | 443 | 24 | | | |
| 分区計 | 1 | 31 | 9 | 1 | 31 | 3 | 16 | 703 | 35 | 1 | 6 | 2 |
| 地区分区計 | 44 | 1,263 | 516 | 85 | 2107 | 249 | 286 | 10,572 | 571 | 8 | 66 | 15 |

※救急法講習の種類

救急員養成講習：救命手当及び応急手当の知識と技術を習得する救急員の養成を目的とした講習で、救急員の資格を付与する。

基　礎　講　習：心肺蘇生法やＡＥＤ（自動体外式除細動器）の使用方法、気道異物除去の方法など一次救命処置の正しい知識と技術を習得することを目的とした４時間の講習。救急法基礎講習修了者として認定される。

短　期　講　習：救急員養成講習の内容の一部を実施する２時間程度の講習。

②水上安全法講習

| 地区分区名 | 救助員養成講習 | | | 短　期　講　習 | | | 資格継続研修 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 実施回数 | 受講人員 | 指導員 | 実施回数 | 受講人員 | 指導員 | 実施回数 | 受講人員 | 指導員 |
| 下田市 | 1 | 13 | 6 | | | | | | |
| 沼津市 | | | | | | | 1 | 10 | 3 |
| 富士市 | 1 | 16 | 39 | 2 | 70 | 10 | | | |
| 裾野市 | | | | 1 | 20 | 1 | | | |
| 静岡市 | 1 | 25 | 51 | 7 | 287 | 23 | 2 | 12 | 3 |
| 焼津市 | | | | 1 | 15 | 2 | | | |
| 藤枝市 | | | | 4 | 120 | 9 | | | |
| 袋井市 | | | | 2 | 70 | 4 | | | |
| 掛川市 | | | | 1 | 80 | 2 | | | |
| 伊東市 | | | | 2 | 70 | 5 | | | |
| 浜松市 | 1 | 34 | 56 | 1 | 110 | 6 | 1 | 10 | 2 |
| 地区計 | 4 | 88 | 152 | 21 | 842 | 62 | 4 | 32 | 8 |
| 分区計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 地区分区計 | 4 | 88 | 152 | 21 | 842 | 62 | 1 | 10 | 2 |

※水上安全法講習の種類

救助員養成講習：水上安全法の知識技術を習得する救助員の養成を目的とした講習で、救助員の資格を付与する。

短　期　講　習：救助員養成講習の内容の一部を実施する２時間程度の講習。

### ③健康生活支援講習

| | 支援員養成講習 | | | 短　期　講　習 | | | 災害時高齢者生活支援講習 | | | 資格継続研修 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 実施回数 | 受講人員 | 指導員 | 実施回数 | 受講人員 | 指導員 | 実施回数 | 受講人員 | 指導員 | 実施回数 | 受講人員 | 指導員 |
| 下田市 | | | | 1 | 20 | 1 | | | | | | |
| 伊東市 | 1 | 6 | 2 | | | | 3 | 70 | 3 | | | |
| 伊豆市 | 2 | 17 | 6 | | | | 3 | 83 | 3 | | | |
| 三島市 | | | | | | | 2 | 75 | 2 | | | |
| 御殿場市 | | | | 1 | 47 | 1 | 1 | 23 | 1 | | | |
| 沼津市 | 1 | 8 | 4 | 6 | 134 | 6 | 5 | 136 | 6 | | | |
| 富士市 | | | | 2 | 60 | 3 | | | | | | |
| 富士宮市 | | | | 2 | 49 | 2 | | | | | | |
| 静岡市 | 3 | 15 | 21 | 11 | 354 | 12 | 5 | 49 | 43 | 1 | 13 | 1 |
| 焼津市 | | | | 2 | 63 | 2 | 7 | 245 | 10 | | | |
| 藤枝市 | | | | | | | 1 | 17 | 1 | | | |
| 島田市 | | | | 6 | 182 | 7 | 2 | 73 | 2 | | | |
| 牧之原市 | | | | 2 | 86 | 4 | | | | | | |
| 掛川市 | | | | 2 | 55 | 2 | 2 | 93 | 3 | | | |
| 磐田市 | | | | 4 | 94 | 5 | 2 | 45 | 2 | | | |
| 浜松市 | 3 | 17 | 13 | 2 | 46 | 3 | 11 | 200 | 14 | 1 | 5 | 2 |
| 湖西市 | | | | | | | 1 | 25 | 2 | | | |
| 地区計 | 10 | 63 | 46 | 41 | 1,190 | 48 | 45 | 1,134 | 92 | 2 | 18 | 3 |
| 松崎町 | | | | | | | 1 | 27 | 1 | | | |
| 小山町 | | | | 1 | 18 | 1 | 1 | 15 | 1 | | | |
| 吉田町 | | | | 3 | 106 | 3 | 1 | 47 | 1 | | | |
| 川根本町 | | | | 1 | 18 | 1 | 1 | 31 | 2 | | | |
| 森町 | | | | 1 | 10 | 1 | 1 | 70 | 2 | | | |
| 分区計 | 0 | 0 | 0 | 6 | 152 | 6 | 5 | 190 | 7 | 0 | 0 | 0 |
| 地区分区計 | 10 | 63 | 46 | 47 | 1,342 | 54 | 50 | 1,324 | 99 | 2 | 18 | 3 |

※健康生活支援講習の種類

支援員養成講習：健康生活支援講習の知識技術を習得する支援員の養成を目的とした講習で、健康生活支援講習支援員の資格を付与する。

短　期　講　習：支援員養成講習の内容の一部を実施する２時間程度の講習。

災害時高齢者生活支援講習：災害が起こったとき、高齢者の避難所生活に焦点をあてて、誰もが知っておいていただきたい内容を２時間にまとめた短期講習。

## ④幼児安全法

| | 支援員養成講習 | | | 短　期　講　習 | | | 資格継続研修 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 実施回数 | 受講人員 | 指導員 | 実施回数 | 受講人員 | 指導員 | 実施回数 | 受講人員 | 指導員 |
| 伊東市 | | | | 1 | 12 | 1 | | | |
| 熱海市 | | | | 1 | 15 | 1 | | | |
| 三島市 | | | | 1 | 26 | 1 | | | |
| 裾野市 | | | | 1 | 30 | 1 | | | |
| 沼津市 | 2 | 11 | 9 | 1 | 60 | 1 | | | |
| 静岡市 | 4 | 43 | 32 | 13 | 262 | 14 | 1 | 7 | 2 |
| 焼津市 | | | | 3 | 167 | 6 | | | |
| 藤枝市 | | | | 1 | 25 | 1 | | | |
| 牧之原市 | | | | 1 | 26 | 2 | | | |
| 島田市 | | | | 9 | 318 | 13 | | | |
| 菊川市 | | | | 1 | 30 | 1 | | | |
| 掛川市 | | | | 3 | 60 | 4 | | | |
| 袋井市 | | | | 2 | 51 | 3 | | | |
| 磐田市 | | | | 2 | 43 | 2 | | | |
| 浜松市 | 5 | 27 | 20 | 4 | 71 | 5 | 1 | 7 | 2 |
| 湖西市 | | | | 1 | 10 | 1 | | | |
| 地区計 | 11 | 81 | 61 | 45 | 1,206 | 57 | 2 | 14 | 4 |
| 吉田町 | | | | 1 | 15 | 1 | | | |
| 川根本町 | | | | 1 | 8 | 2 | | | |
| 分区計 | 0 | 0 | 0 | 2 | 23 | 3 | 0 | 0 | 0 |
| 地区分区計 | 11 | 81 | 61 | 47 | 1,229 | 60 | 2 | 14 | 4 |

※幼児安全法講習の種類

支援員養成講習：幼児安全法の知識技術を習得する支援員の養成を目的とした講習で、幼児安全法支援員の資格を付与する。

短　期　講　習：支援員養成講習の内容の一部を実施する２時間程度の講習。

▲救急法救急員養成講習会

▲水上安全法救助員養成講習会

▲健康生活支援講習指導員技術研修

▲幼児安全法指導員技術研修

（５）　「しずおかＡＥＤマップ」（ＡＥＤ検索システム）

一般市民によるＡＥＤ（自動体外式除細動器）の使用が可能となったことに伴い、現在、国内におおよそ２５万台以上のＡＥＤが設置されている。

しかし、ＡＥＤの設置場所や利用可能時間などの具体的な情報を共有するシステムがこれまで整備されていなかった。

静岡県支部では、一般市民を対象としてＡＥＤの取り扱いなどを内容とした一次救命処置を普及している。講習等で習得した技術・知識を活用し、救命率を向上させるため、設置者に照会したうえで、県内のＡＥＤ設置場所を明らかにするとともに、有事の際の供与が可能か否かを携帯端末からも利用可能なＡＥＤを検索できるシステムをホームページ上に構築した。（3月 31 日現在 1,946 台が登録されている）

▲しずおかＡＥＤマップ
（インターネットで設置場所を示す）

## （６）　赤十字救急法競技会

赤十字救急法競技会は、その参加者が日頃の救急法の手技の修練を競技会で発表し、技術の向上と日常生活における安全意識を高めることを目的としている。平成 24 年 1 月 21 日（土）、静岡市中央体育館において、第１回赤十字救急法競技会を開催した。

競技は「三角巾８つ折り競技」「三角巾リレー競技」「救命応急手当競技」「心肺蘇生法競技」の４種目を実施した。競技会には、県内各地から２５０人の出場者と応援１５０人が参加した。大会スタッフの８０人のボランティアを含め、約５００人の参加があった。

また、競技会場では交流コーナーが設置され、各奉仕団の活動紹介や実演が行われた。会場内では参加者相互の交流があり、ボランティア同士の連携を強化するため親睦の場となった。

▲三角巾リレー競技

▲救命応急手当競技

▲交流コーナー（静岡県柔道整復師赤十字奉仕団）

▲表彰式

## 4　赤十字奉仕団活動

赤十字の基盤となる重要なボランティア組織として、地域ごとに結成された『地域赤十字奉仕団』、青年や学生の若い力を社会のために役立てようと結成された『青年赤十字奉仕団』、様々な専門技術を持つ人々や特定の奉仕活動を行う人々で組織された『特殊赤十字奉仕団』が、赤十字の理念のもとに、それぞれの持ち味を生かした奉仕活動を展開している。

### （１）　赤十字奉仕団静岡県支部委員会

地域赤十字奉仕団委員会の役員、青年赤十字奉仕団、各特殊奉仕団の委員長、副委員長で構成されており、支部管内の各奉仕団の運営に関し、奉仕団活動の情報交換を行うと共に、積極的な活動の推進に向けて連絡調整を行っている。

・赤十字奉仕団支部委員会役員（カッコ内は所属赤十字奉仕団の役職）

委　員　長　鈴木 節子（静岡県地域赤十字奉仕団委員会　委員長）
副 委 員 長　渡邉 京子（静岡県地域赤十字奉仕団委員会　副委員長）
〃　松永 博　（静岡県無線赤十字奉仕団委員会　委員長）
〃　小木 絹代（静岡県赤十字安全奉仕団委員会　委員長）

### （２）　地域赤十字奉仕団　[43 団　団員　20,585 人]

地域赤十字奉仕団は、地区分区を中心として、各市町でその地域に根ざした奉仕活動を実践するために結成されたもので、本年度も各市町において活発な活動が展開された。

平成 24 年 3 月末現在、県下の奉仕団は、23 市と 8 町に合計 43 団が結成されている。

・地域赤十字奉仕団委員会役員（カッコ内は所属赤十字奉仕団）

委　員　長　鈴木 節子（静岡市葵・駿河区）
副 委 員 長　渡邉 京子（富士宮市）
〃　門長 ひさ江（藤枝市藤枝）
〃　小木 絹代（浜松市浜北）

常任委員　江藤 エミ（御殿場市）
〃　鈴木 和子（長泉町）
〃　吉野 ちよみ（静岡市清水区）
〃　岩倉 ひろ子（掛川市）
〃　髙木 通世（袋井市）
〃　今井 康子（浜松市春野）

#### ①　結成状況及び団体数

| 種　　別 | 団　数 | 団　員　数　（人） | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 男 | 女 | 合　計 |
| 市　奉　仕　団 | 35 | 713 | 19,064 | 19,777 |
| 町　奉　仕　団 | 8 | 24 | 782 | 806 |
| 合　　計 | 43 | 735 | 19,846 | 20,583 |

② 平成23年度静岡県地域赤十字奉仕団活動状況

| 年月日 | 活　動　内　容 | 活　動　場　所 | 出　席　者 |
|---|---|---|---|
| 23年4月25日 | 第1回静岡県地域赤十字奉仕団委員会<br>〃　　　　役員会 | 静岡市葵区　静岡県支部 | 各委員長<br>委員会役員 |
| 27日 | 静岡県戦没戦災者春季追悼式 | 静岡市葵区　護国神社 | 鈴木県委員長 |
| 5月6日 | 第60回“社会を明るくする運動” | 静岡市葵区　県産業経済会館 | 鈴木県委員長 |
| 14日 | 世界赤十字デーキャンペーン<br><br>・5月14日を中心に各市町において<br>広報用チラシ等を配布 | 静岡市葵区　葵スクエア | 静岡市葵・駿河区<br>赤十字奉仕団<br>各奉仕団 |
| 27日 | 静岡県社会福祉協議会評議員会 | 静岡市葵区　県総合社会<br>福祉会館 | 鈴木県委員長 |
| 29日 | 第51回静岡県青少年赤十字大会 | 静岡市駿河区　グランシップ | 各奉仕団 |
| 6月7日～8日 | 赤十字奉仕団中央委員会 | 東京都　日本赤十字社 | 鈴木県委員長 |
| 22～23日 | 第3ブロック赤十字奉仕団委員長及び担当者会議 | 富山県　富山県支部 | 鈴木県委員長 |
| 8月1日 | 静岡県献血推進大会 | 静岡市駿河区　グランシップ | 鈴木県委員長<br>小木県副委員長 |
| 9月11日 | ボランティア・リーダー研修会<br>〈本社主催〉 | 御殿場市　ＹＭＣＡ「東山荘」 | 吉野常任委員 |
| 10月16日 | 長泉町福祉健康まつり | 長泉町福祉保健会館 | 長泉町赤十字奉仕団<br>芸能赤十字奉仕団 |
| 21日 | 第2回静岡県地域赤十字奉仕団委員会 | 静岡市葵区　静岡県支部 | 各委員長 |
| 23日 | 静岡県戦没者秋季追悼式 | 静岡市葵区　護国神社 | 鈴木県委員長 |
| 25日 | 静岡県社会福祉協議会評議員会 | 静岡市葵区　県産業経済会館 | 鈴木県委員長 |
| 29日 | 大東市民交流センターフェスタ | 掛川市　大東支所 | 掛川市赤十字奉仕団 |
| 11月6日 | フェスティバル豊田（ブース出展） | 磐田市　アミューズ豊田 | 磐田市赤十字奉仕団 |
| 15日 | 愛知県赤十字奉仕団リーダー交流会 | 静岡市葵区　静岡県支部 | 県正副委員長<br>看護赤十字奉仕団 |
| 12月1～25日 | ＮＨＫ海外たすけあいキャンペーン | 各市町 | 各奉仕団 |
| 7日 | 情報伝達訓練 | 各市町 | 各委員長 |
| 24年1月21日 | 第1回静岡県赤十字救急法競技会 | 静岡市葵区　静岡市中央体育館 | 各奉仕団 |
| 2月17日 | 第3回静岡県地域赤十字奉仕団委員会<br>静岡県献血推進協議会 | 静岡市葵区　静岡県支部 | 各奉仕団 |
| 3月24日 | 静岡県社会福祉協議会評議員会 | 静岡市葵区　県総合社会<br>福祉会館 | 鈴木県委員長 |

### ③　ボランティア・リーダーシップ研修会

赤十字奉仕団のリーダーとして必要な知識・技術の習得と、奉仕活動の充実及び向上を図ることを目的とし、新規委員長及び将来リーダーとなる団員、中核的な役割を担う団員を対象に、支部が研修会を開催した。

| 開催年月日 | 参加区分 | 会場 | 参加団数 | 参加人数（人） |
|---|---|---|---|---|
| 平成 23 年<br>6 月 28～29 日 | 東部（静岡市、藤枝市、焼津市以東） | ニュー・ウェルサンピア沼津（沼津市） | 20 | 39 |
| 平成 23 年<br>7 月 5～ 6 日 | 西部（川根本町、島田市、吉田町以西） | ヤマハリゾート　つま恋（掛川市） | 19 | 37 |
| 計 | | | 39 | 76 |

研修会で避難所運営ゲーム（HUG）に取り組む参加者

### ④　静岡県地域赤十字奉仕団活動活性化事業の実施

平成 21 年度から静岡県内の地域赤十字奉仕団活動の充実、強化を図ることを目的に、地域に根ざした活動を展開している地域赤十字奉仕団を活性化させるため、地域赤十字奉仕団活動活性化事業を実施している。社員増強運動、青少年赤十字活動との連携などの地域赤十字奉仕団活動の拡大に取り組む奉仕団をモデル奉仕団として指定し、その活動を奨励している。

実施期間は 3 年以内とし、本年度は地域赤十字奉仕団委員会の審査を経て指定を受けた 5 団が実施した。

実施赤十字奉仕団

| 赤十字奉仕団名 | 活動内容 |
|---|---|
| 富士宮市赤十字奉仕団 | 芝川地区の団員増強 |
| 静岡市葵・駿河区赤十字奉仕団 | 設備の手入れ、施設の清掃・庭の手入れ等 |
| 御前崎市赤十字奉仕団 | 御前崎市の社員増強、イベントでの赤十字PR |
| 長泉町赤十字奉仕団 | 幼稚園・保育園・小、中学校での出張授業<br>地域でのリラクゼーションの実施 |
| 小山町赤十字奉仕団 | JRC 加盟校を含む小、中学校及び高校において福祉教育の実施 |
| 計 | 5 団 |

### ⑤　奉仕団総会の開催

県下各地で開催された地域奉仕団総会は以下のとおり。

**総会開催状況**

| 開催月日 | 奉 仕 団 名 | 参加者（人） | 会　　場 |
|---|---|---|---|
| 4 月 7 日 | 藤枝市岡部赤十字奉仕団 | 140 | 藤枝市岡部公民館 |
| 4 月 7 日 | 掛川市赤十字奉仕団 | 100 | 文化会館シオーネ |
| 4 月 9 日 | 御前崎市赤十字奉仕団 | 200 | 御前崎市佐倉公民館（さくらんぼ） |
| 4 月 14 日 | 牧之原市赤十字奉仕団 | 250 | 榛原文化センター |
| 4 月 17 日 | 焼津市大井川赤十字奉仕団 | 200 | 焼津市大井川公民館 |
| 4 月 19 日 | 伊豆の国市赤十字奉仕団 | 125 | 伊豆の国市韮山福祉・保健センター |
| 4 月 22 日 | 藤枝市藤枝赤十字奉仕団 | 60 | 藤枝市生涯学習センター |
| 4 月 22 日 | 熱海市赤十字奉仕団 | 40 | いきいきプラザ |
| 4 月 23 日 | 袋井市赤十字奉仕団 | 25 | 袋井市役所 |
| 4 月 27 日 | 伊豆市赤十字奉仕団 | 80 | 修善寺生きいきプラザ |
| 4 月 27 日 | 湖西市赤十字奉仕団 | 50 | 湖西市健康福祉センター |
| 4 月 28 日 | 裾野市赤十字奉仕団 | 120 | 裾野市生涯学習センター |
| 5 月 9 日 | 焼津市焼津赤十字奉仕団 | 60 | 焼津市焼津公民館 |
| 5 月 9 日 | 函南町赤十字奉仕団 | 40 | 函南町役場 |
| 5 月 11 日 | 清水町赤十字奉仕団 | 25 | 清水町福祉センター |
| 5 月 17 日 | 富士宮赤十字奉仕団 | 30 | 富士宮市総合福祉会館 |
| 5 月 17 日 | 沼津市赤十字奉仕団 | 500 | 沼津市民文化センター |
| 5 月 18 日 | 浜松市浜北赤十字奉仕団 | 30 | 浜松市浜北区役所 |
| 5 月 19 日 | 長泉町赤十字奉仕団 | 40 | 長泉町　いずみの郷 |
| 5 月 20 日 | 松崎町赤十字奉仕団 | 35 | 松崎町環境改善センター |
| 5 月 20 日 | 浜松市浜松赤十字奉仕団 | 15 | 浜松市役所 |
| 5 月 23 日 | 菊川市赤十字奉仕団 | 57 | 菊川市総合健康福祉センター |
| 5 月 24 日 | 吉田町赤十字奉仕団 | 50 | 吉田町役場 |
| 5 月 24 日 | 静岡市清水区赤十字奉仕団 | 60 | 静岡市清水区役所 |
| 5 月 27 日 | 島田市赤十字奉仕団 | 100 | 金谷公民館　みんくる |
| 6 月 2 日 | 静岡市葵・駿河区赤十字奉仕団 | 230 | 静岡県男女共同参画センター あざれあ |
| 6 月 21 日 | 川根本町赤十字奉仕団 | 60 | 川根本町　山村開発センター |
| 合　計　（27 団） | | 2,722 | |

⑥　**基礎研修会の開催**

平成 18 年度からの 3 ヵ年計画で実施した防災基礎研修に引き続き、平成 21 年度から 3 年間に全奉仕団が実施する基礎研修会へ、県支部から講師を派遣するとともに、開催経費の一部を助成した。本年度は 11 団が実施した。基礎研修会は赤十字ボランティアとしての知識と技術の基礎を身につけることを目的とし、研修内容は防災に限らず、各団の実状にあわせたプログラムにより実施している。

また、新入団員の研修を主な目的として、単位団で基礎研修が開催されている。

**基礎研修会開催状況**

| 開催月日 | 奉　仕　団　名 | 参加者（人） | 会　　　場 |
|---|---|---|---|
| 5 月 19 日 | 森町赤十字奉仕団 | 63 | 森町飯田防災センター |
| 7 月 22 日 | 御前崎市赤十字奉仕団 | 42 | 浜岡福祉会館 |
| 8 月 3 日 | 浜松市引佐赤十字奉仕団 | 17 | 引佐健康文化センター |
| 9 月 27 日 | 熱海市赤十字奉仕団 | 26 | 熱海 YMCA 青少年センター |
| 9 月 28 日 | 浜松市雄踏赤十字奉仕団 | 21 | 雄踏文化センター |
| 10 月 12 日 | 富士宮市赤十字奉仕団 | 22 | 富士宮市社会福祉会館 |
| 11 月 10 日 | 吉田町赤十字奉仕団 | 44 | 吉田町保健センター |
| 11 月 18 日 | 裾野市赤十字奉仕団 | 40 | 裾野市福祉保健会館 |
| 11 月 21 日 | 牧之原市赤十字奉仕団 | 37 | 牧之原市総合健康福祉センター |
| 11 月 22 日 | 伊豆の国市赤十字奉仕団 | 41 | 韮山福祉保健センター |
| 12 月 1 日 | 松崎町赤十字奉仕団 | 23 | 松崎町環境改善センター |
| 合　計 | (11 団) | 376 | |

**基礎研修会開催状況（単位団開催）**

| 開催年月日 | 奉　仕　団　名 | 参加者（人） | 会　　　場 |
|---|---|---|---|
| 9 月 6 日 | 函南町赤十字奉仕団 | 43 | 函南町保健福祉センター |
| 9 月 22 日 | 伊豆市赤十字奉仕団 | 65 | 伊豆市役所　天城湯ヶ島支所 |
| 10 月 20 日 | 磐田市赤十字奉仕団 | 53 | 磐田市役所 福田支所 |
| 合　計 | (3 団) | 161 | |

**（３）　青年赤十字奉仕団　［団員　26 人］**

青年赤十字奉仕団は、今後の赤十字を築く青年や学生が赤十字精神に基づき青年としての立場でボランティアを行っている。

主として青少年赤十字経験者の青年や学生で構成されており、青少年赤十字への支援、献血推進活動、他団体との連携活動に力を入れている。

本年度は、全国の青年赤十字奉仕団共通活動であるＨＩＶ／エイズピア・エデュケーシ

ョンも積極的に取り組み、静岡福祉大学大学祭においてピア・エデュケーションのパネル展示やパンフレットの配布等を行った。

献血キャンペーンでは、呼び込みの他、本年度は静岡県赤十字血液センターや芸能奉仕団の協力を得て、同奉仕団が企画して実施した。

・青年赤十字奉仕団役員

委員長　飯尾　卓　　副委員長　松木　孝真

**本年度の主な行事・活動**

| 年月日 | 活　動　内　容 | 活　動　場　所 | 活動人数（人） |
|---|---|---|---|
| 23年4月17日 | 基礎研修会 | 静岡市葵区　静岡県支部 | 6 |
| 5月14日 | 世界赤十字デーキャンペーン | 静岡市葵区　葵スクエア | 3 |
| 22日 | 定例会 | 静岡市葵区　静岡県支部 | 6 |
| 29日 | 第51回静岡県青少年赤十字大会 | 静岡市駿河区　グランシップ | 5 |
| 6月11～12日 | 第3ブロック青年赤十字奉仕団代表者及び担当者会議 | 愛知県　日赤愛知県支部 | 3 |
| 6月26日 | 定例会 | 静岡市葵区　静岡県支部 | 7 |
| 7月10日 | 定例会 | 静岡市葵区　静岡県支部 | 5 |
| 17日 | サマー献血キャンペーン | 静岡市葵区　葵スクエア | 7 |
| | 青少年赤十字（JRC）高校リーダーシップ・トレーニングセンター打合せ | 静岡市葵区　静岡県支部 | 6 |
| | 定例会 | | 6 |
| 23～24日 | 青年赤十字奉仕団全国協議会 | 東京都　日本赤十字社 | 2 |
| 8月10日 | 定例会 | 静岡市葵区　静岡県支部 | 5 |
| 21日 | 24時間テレビ募金受付業務 | 静岡市葵区　静岡駅地下北口 | 4 |
| 16～18日 | 青少年赤十字高校リーダーシップ・トレーニングセンター | 富士宮市　朝霧野外活動センター | 5 |
| 26～27日 | ピア・リーダー養成研修会(本社主催) | 東京都　八王子セミナーハウス | 2 |
| 28～29日 | 赤十字ボランティア・リーダー研修会 | 東京都　八王子セミナーハウス | 1 |
| 9月11日 | 定例会 | 静岡市葵区　静岡県支部 | 5 |
| 10月9日 | HIV/エイズピアエデュケーション準備 | 静岡市葵区　静岡県支部 | 5 |
| 16日 | 定例会（JRC3年生を送る会） | 静岡市葵区　静岡県支部 | 7 |
| 11月6日 | HIV/エイズピアエデュケーション | 焼津市　静岡福祉大学 | 4 |
| 27日 | 定例会 | 静岡市葵区　静岡県支部 | 8 |
| 12月11日 | 定例会 | 静岡市葵区　静岡県支部 | 7 |
| 18日 | クリスマス献血キャンペーン | 静岡市葵区　葵スクエア | 5 |
| 24年1月8日 | 定例会 | 静岡市葵区　静岡県支部 | 3 |
| 1月21日 | 赤十字救急法競技会 | 静岡市葵区　静岡市立中央体育館 | 2 |

| 2月12日 | 定例会 | 静岡市葵区　静岡県支部 | 2 |
|---|---|---|---|
| 年月日 | 活　動　内　容 | 活　動　場　所 | 活動人数<br>（人） |
| 3月25日 | 総会<br>定例会 | 静岡市葵区　静岡県支部 | 4<br>5 |
| 合　　　計 | | | 130 |

献血キャンペーンに参加した青年赤十字奉仕団員

（４）　**特殊赤十字奉仕団**

①　**静岡県無線赤十字奉仕団　［団員　156人］**

県内在住のアマチュア無線従事者で組織されている。支部社屋に統制局、浜松赤十病院、裾野赤十字病院、下田市に副統制局を設けて、赤十字の行う災害救護業務を円滑に遂行させるため、無線通信技術を生かした活動を展開している。本年度は、浜松赤十字病院地震・防災訓練に参加し、第３ブロック支部のアマチュア無線奉仕団との県外非常通信訓練を行った。

・静岡県無線赤十字奉仕団役員

委員長　松永　博　　　副委員長　森下　剛嗣　　岡本　禎夫

中西　嘉文　　山本　忠男

浜松赤十字病院地震・防災訓練での県外非常通信訓練

## ②　静岡県赤十字安全奉仕団　［団員　299 人］

団員は赤十字救急法等に関する有資格者で組織されている。本年度も大道芸ワールドカップに団員を派遣し救護を行うなど、社会の安全に奉仕するための活動を展開した。

また、世界赤十字デーキャンペーン、第１回赤十字救急法競技会への参加など、支部事業への運営支援や参加協力活動を積極的に行った。

・静岡県赤十字安全奉仕団役員

委員長　　上條　美昭　　　副委員長　葛谷　友子　　細見　誠　　藤本　孝雄

赤十字デーキャンペーンでのＡＥＤ体験

## ③　静岡県赤十字水上安全奉仕団　［団員　82 人］

水上安全法指導員及び救助員で組織されている。本年度も水の事故から命を守る赤十字水上安全法の指導及び普及を行う他、県内の海水浴場、水泳大会等に団員を派遣し、監視活動を展開した。東・中・西部において地区研修を行い、知識技術の研鑽及び活動の充実を図った。また、支部事業の世界赤十字デーキャンペーンや第１回赤十字救急法競技会等にも参加協力した。

・静岡県赤十字水上安全奉仕団役員

委員長　　菅沼　博明　　　副委員長　杉山　利道　　中見　隆男　　古橋　理

水上安全法講習での指導員としての活動風景

## ④　静岡県点訳赤十字奉仕団　［団員　28 人］

視覚障害者の生活と文化の向上のため、点訳を中心とした赤十字の奉仕者組織として平成６年１月２２日に結成された。団員は点字講習会を受講した学生・主婦・会社員等により構成されている。

点字は、鉄道の券売機、病院の薬袋、ゴミ収集日程表、レストラン等のメニュー、電化製品の取扱説明書等日常生活になくてはならないものであり、奉仕団は点字レシピ・

点訳カレンダーの作製などを定期的に行うほか、挿絵から装丁まで全て手作業による点訳絵本も作製した。点訳絵本は静岡市内の小学校を中心に寄贈した。また本年度は、行政と連携し町づくりのアドバイザーの役割を担った。

点字についての講習会を一般住民や高校生を対象に開催する他、小学校に出向き点字の授業を行うなど幅広い年代に点字の普及に努めた。

・静岡県点訳赤十字奉仕団役員

委員長　佐藤　和子　　副委員長　望月　康宏　　荒木　和枝

赤十字デーキャンペーンでの点字指導風景

**⑤　静岡県赤十字看護奉仕団　［団員　43 人］**

看護の知識と技術を活かして、地域の保健福祉に関する活動を主に赤十字事業に協力することを目的として、「ＶＳ（ボランティアサービス）たんぽぽ」の愛称で活動しており、団員は県内在住の元看護職で構成されている。

本年度は、支部救護看護師派遣への協力、幼児安全法講習時の託児、高齢者・障害児（者）及び家族への支援、大道芸ワールドカップ・清水まつり等の救護、第１回赤十字救急法競技会への参加、定例会では三角巾、ＡＥＤ使用法の実技研修を行った。

東日本大震災においては、本社の災害対策本部の補助業務、静岡県支部での義援金の受付ボランティア業務にも従事した。

・静岡県赤十字看護奉仕団役員

委員長　牧田　歌子　　副委員長兼会計　柴田　郁代　　書記　信澤　欣恵

赤十字デーキャンペーンでハンドケアを行う看護奉仕団

**⑥　静岡県柔道整復師赤十字奉仕団　［団員　374 人］**

柔道整復師としての知識と技術を活かしたボランティア活動を通じて、明るく住み良い社会を築き上げていくことを目的として活動している。第１回赤十字救急法競技会では準備体操として「健康柔体操」を披露し、選手と観覧者全員で行った。

・静岡県柔道整復師赤十字奉仕団役員

委員長　永田　官久　　副委員長　鈴木　　努　　藤田　知恵男　　水野　　進

赤十字救急法競技会で「健康柔体操」を指導する団員

**⑦　静岡県青少年赤十字賛助奉仕団　［団員　106 人］**

学校教育経験者で組織されており、 青少年赤十字の発展・普及を支援し、青少年の健全育成に寄与するために、加盟校・未加盟校や各市町教育委員会を訪問し、青少年赤十字への理解と促進を図っている。

・役員

委員長　小澤　由一　　　副委員長　巻口　薫　　　桑原　義司

河合昭八郎　　　藤原　武光

静岡県青少年赤十字賛助奉仕団総会の様子

**⑧　静岡県芸能赤十字奉仕団　［団員　17 人］**

大道芸という趣味・特技を行う奉仕者組織として、平成１７年２月に結成された。

本年度は、支部主催による世界赤十字デーキャンペーンや第１回赤十字救急法競技会等において、人目を引くパフォーマンスと華やかさで行事を盛り上げた。

この他にも、各地区社会福祉協議会が主催する行事への参加、子育て支援や高齢者との交流、大道芸ワールドカップ運営支援など、対外的にも幅広い活動を展開した。

・静岡県芸能赤十字奉仕団役員

委員長　　藤田　秋夫　　副委員長　松村　貢二

世界赤十字デーキャンペーンでのパフォーマンス風景

## ５　青少年赤十字（Junior　Red　Cross）活動

青少年赤十字は、青少年が赤十字の精神に基づいて、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、望ましい人格と精神を自ら形成することを目的としている。「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の実践活動を通して学校の教育活動に寄与し、豊かな社会形成の要請に応えるよう、青少年赤十字組織の拡大に努めている。

### （１）　加盟校

| 年　　　度 | 平成２３年度末 | | 平成２２年度末 | |
|---|---|---|---|---|
| 区分／校種別 | 加盟校（園）校 | メンバー数（人） | 加盟校（園）校 | メンバー数（人） |
| 幼稚園・保育所（園） | 6 | 725 | 6 | 720 |
| 小 学 校 | 64 | 18,575 | 60 | 16,507 |
| 中 学 校 | 48 | 10,359 | 41 | 9,414 |
| 高等学校 | 101 | 6,658 | 89 | 7,798 |
| 合　　計 | 219 | 36,317 | 196 | 34,439 |

### （２）　青少年赤十字活動の状況

#### ①　青少年赤十字の推進･運営

青少年赤十字の普及と加盟校の連携を目的として、加盟校の校長や指導者等で構成された「静岡県青少年赤十字指導者協議会」が組織されている。協議会は加盟校相互の連絡や加盟の促進に向けて調整･協議や青少年赤十字活動に向けた研究を行うこととしている。

・静岡県青少年赤十字指導者協議会　総会・役員会

| 開催月日 | 事　　　業 | 参加者（人） | 会　　場 |
|---|---|---|---|
| 4 月 18 日 | 評議員会・総会 | 47 | 静岡県支部 |
| 4 月 18 日 | 第 1 回役員会 | 15 | 静岡県支部 |
| 9 月 5 日 | 第 2 回役員会 | 12 | 静岡県支部 |
| 1 月 16 日 | 第 3 回役員会 | 12 | 静岡県支部 |

#### ②　指導者の養成・強化

青少年赤十字の普及・推進を図るためには、赤十字・青少年赤十字への理解を深め、実践を進めることができるよう、指導者等の育成に向けて研修会を開催した。

・校長（教頭）研修会

| 開催月日 | 内　　　　容 | 参加者（人） | 会　　場 |
|---|---|---|---|
| 6 月 7 日 | ・講話「東日本大震災の救護活動をとおして」<br>・研究協議（分科会）「青少年赤十字活動の現状と課題、今後の活動推進について」 | 32・ｽﾀｯﾌ 5 | 静岡県支部 |

・指導者講習会

<table>
<tr><th>開催月日</th><th>事　　業</th><th>内　　容</th><th>参加者（人）</th><th>会　　場</th></tr>
<tr><td>10 月 12 日</td><td rowspan="3">健康安全プログラム<br>指導者養成講習会</td><td rowspan="3">講話・実技</td><td>7・ｽﾀｯﾌ 3</td><td>曳馬公民館</td></tr>
<tr><td>10 月 13 日</td><td>9・ｽﾀｯﾌ 3</td><td>静岡県支部</td></tr>
<tr><td>10 月 14 日</td><td>15・ｽﾀｯﾌ 3</td><td>沼津第五地区センター</td></tr>
</table>

### ③　メンバーの育成・強化

・静岡県青少年赤十字大会

加盟校メンバーが一堂に会し、赤十字精神の高揚と､相互の親睦を深め、青少年赤十字活動の拡大発展を図るため｢手をつなぎボランティアＪＲＣ」をメインテーマに、第５１回静岡県青少年赤十字大会を開催した。

| 開催月日 | 事　業 | 内　　容 | 参加者（人） | 会　　場 |
|---|---|---|---|---|
| 5 月　6 日 | 運営委員会 | 作品審査、運営 | 8 | 静岡県支部 |
| 5 月 29 日 | 第 51 回大会 | 表彰、活動発表、事業報告 | 45 校、333 | グランシップ |

静岡県青少年赤十字大会（グランシップ）

・リーダーシップ・トレーニング・センター

青少年赤十字メンバーのリーダー養成と加盟校の交流を深めるため、各地区で開催した。

| 開催月日 | 地　区 | 内　　　　容 | 参加者（人） | 会　　場 |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 8月2日<br>～<br>8月3日 | 中　部 | 集団生活を通じ、「自主性やリーダーシップの取り方」を習得する事を目指す。また、赤十字の基本原則等を学ぶことにより、人道的価値観を自ら身につけ、行動できる力を身につける。<br>・赤十字・青少年赤十字について<br>・ワークショップ<br>・グループワーク<br>・フィールドワーク<br>・健康安全プログラムなど | 10校、76<br>引率・ｽﾀｯﾌ 32 | 清水和田島<br>少年自然の家 |
| 8月10日<br>～<br>8月12日 | 東　部 | | 15校、86<br>引率・ｽﾀｯﾌ 27 | 桃沢野外活動<br>センター |
| 8月11日 | 西　部 | | 14校、63<br>引率・ｽﾀｯﾌ 33 | 浜松市立青少年の家 |
| 8月16日<br>～<br>8月18日 | 高　校 | | 11校、25<br>引率・ｽﾀｯﾌ 26 | 朝霧野外活動<br>センター |
| 11月6日 | | 高校トレセン事後研修会 | 8校、19<br>引率・ｽﾀｯﾌ 11 | 静岡県支部 |

リーダーシップ・トレーニング・センターの様子

・高等学校メンバー協議会

高校生メンバーの研修及び交流を図るため、本年度は次のとおり開催した。

| 開催月日 | 事　業 | 内　　　　容 | 参加者（人） | 会　　場 |
|---|---|---|---|---|
| 4月17日 | 定例会<br>役員会 | 東日本大震災義援金募金活動 | 14校、103<br>引率・ｽﾀｯﾌ 15 | 静岡県支部 |
| 5月8日 | 役員会 | 青少年赤十字大会について | 6校、14 | 静岡県支部 |
| 6月19日 | 定例会<br>役員会 | 1年生を迎える会・手話講習会<br>7月の定例会について | 11校、56<br>引率・ｽﾀｯﾌ 13 | 静岡県支部 |
| 7月17日 | 定例会<br>役員会 | 東日本大震災の講話・応急手当<br>9月の定例会について | 15校、63<br>引率・ｽﾀｯﾌ 15 | 静岡県支部 |
| 9月10日 | 県外研修<br>役員会 | 愛知県支部との交流<br>10月の定例会について | 9校、43<br>引率・ｽﾀｯﾌ 10 | 静岡県支部 |
| 10月16日 | 定例会<br>役員会 | 3年生を送る会<br>12月の定例会について | 12校、63<br>引率・ｽﾀｯﾌ 11 | 静岡県支部 |
| 開催月日 | 事　業 | 内　　　　容 | 参加者（人） | 会　　場 |
| 12月18日 | 定例会<br>役員会 | NHK海外たすけあい街頭<br>活動<br>1月の定例会について | 14校、94<br>引率・ｽﾀｯﾌ 17 | 静岡市街地<br>沼津駅周辺<br>静岡県支部 |
| 1月29日 | 定例会<br>役員会 | 国際交流会<br>2月の定例会について | 12校、70<br>引率・ｽﾀｯﾌ 12 | 興津生涯学習<br>交流館 |
| 2月13日 | 定例会<br>役員会 | 点字講習会<br>3月の役員会について | 11校、45<br>引率・ｽﾀｯﾌ 17 | 静岡県支部 |
| 3月11日 | 役員会 | 次年度の計画､運営について | 7校、12人 | 静岡県支部 |

**④　活動推進研究校の設置**

青少年赤十字活動推進研究校として次の２校に研究委嘱している。

・浜松市立新原小学校　（平成２２・２３年度委嘱）

研究主題：「優しさいっぱい　みどりっ子」―思いやりの心をはぐくむＪＲＣ活動―

・富士市立吉原第二中学校　(平成２３・２４年度委嘱)

研究主題：「他者とのふれあいの中で育む生徒の自主性」～人・心・環境を大切にする活動を通して～

### ⑤　国際親善、交流活動の推進

・静岡県青少年赤十字国際交流（派遣）事業

赤十字の国際性及び青少年赤十字の実践目標「国際理解・親善」を図る具体的事業として、マレーシア赤新月社のメンバーとの交流訪問を実施した。現地の人々との触れ合い、異文化の生活体験や研修を通して、国際感覚豊かなメンバーの育成ができ、併せて交流結果の加盟校への報告を行った。

団員：青少年赤十字メンバー6名（高校生)、指導者2名、支部職員1名

| 開催月日 | 事　業 | 内　容 |
| --- | --- | --- |
| 7月10日 | 第1回事前研修会 | 結団式、自己・自校紹介、国際交流の目的と訪問日程、渡航手続き、交流会について |
| 7月31日 | 第2回事前研修会 | 公式訪問の日程と役割、ホームステイの日程と準備、交流会での発表内容、旅行全体についての確認 |
| 8月22日～27日 | 国際交流（派遣） | マレーシア赤新月社訪問、青少年赤十字メンバーとの交流、学校訪問、ホームステイ　他 |
| 10月2日 | 事後研修会 | 交流の成果・課題、報告書作成について |

### ⑥　青少年赤十字思想の普及

青少年赤十字の活動紹介、学習資料や機会を学校教育の場で活用できるよう情報紙の発行など必要な情報提供をした。また、学校と地域が青少年赤十字への理解を深め、活動が地域ぐるみで定着していくよう関係団体との連携に努めた。

１）県青少年赤十字ニュースNo.36発行（2,500部）

２）視聴覚教材の貸し出し　(2件)

３）指導資料等の配付

４）学校訪問及び講師派遣（190校)

５）地域ぐるみ活動の推進

・賛助奉仕団、赤十字奉仕団、地区分区との連携

・青少年育成機関、社会的善意団体との提携

### ⑦　救援活動への協力

海外の紛争や災害・疾病などに苦しむ人々への支援、世界平和と人々の福祉に貢献のため、次の活動が加盟校で行われた。

１）青少年赤十字活動資金（一円玉募金）　………………　4校　68,197円

２）海外医療協力事業（使用済み切手収集）　……………　15校（園）

### ⑧　日本赤十字社 本社・第３ブロック会議等への参加

| 開催月日 | 事　　　　業 | 参加者（人） | 会　　　場 |
|---|---|---|---|
| 6 月 13 日 | 第３ブロック指導者協議会長及び担当者研究会 | 22 | 石川県支部 |
| 6 月 23 日～24 日 | 青少年赤十字全国指導者協議会総会 | 1 | 本社 |
| 7 月 7 日～8 日 | 全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会総会 | 2 | 本社 |
| 8 月 3 日～6 日 | 青少年赤十字指導者中央講習会 | 東日本大震災のため中止 | |
| 1 月 18 日～20 日 | 青少年赤十字研究会 | 1 | 湘南国際村センター |
| 3 月 24 日～29 日 | 青少年赤十字スタディーセンター | 1 | 東照館 |

# ６　社 会 福 祉 活 動

**地域高齢者生活支援活動フォローアップ事業**

平成 13 年度～21 年度の間に実施した地域高齢者生活支援活動モデル奉仕団事業終了後も高齢者の生活支援活動を継続している地域奉仕団に対し、活動のさらなる充実を図ることを目的に、平成 22 年度から地域高齢者生活支援活動フォローアップ事業を実施、年 20 万円を上限とした助成を行った。

実施期間は 2 年間で、本年度は地域赤十字奉仕団委員会の審査を経て指定を受けた 8 団が実施した。

実施赤十字奉仕団

| 赤十字奉仕団名 | 活動内容 |
| --- | --- |
| 伊豆市赤十字奉仕団 | ひとり暮らし高齢者に衛生的で快適な生活をしていただくためにごきぶり駆除の効果をもつ手作りの「ごきぶり団子」を配布。 |
| 伊東市赤十字奉仕団 | 災害時高齢者生活支援講習を受講した団員により、災害時の過ごし方を支援する。 |
| 富士宮市赤十字奉仕団 | 高齢者を対象に応急手当訓練を実施する。 |
| 御前崎市赤十字奉仕団 | 高齢者に身分証明が書き込むことができるティッシュペーパー入れを配布する。団員が訪問・電話などし安否確認や話し相手をし生きがい作りをする。 |
| 浜松市三ケ日赤十字奉仕団 | 施設利用者を対象とした行事の実施、食事会　等 |
| 浜松市春野赤十字奉仕団 | 在宅高齢者及び介護施設利用の高齢者の生きがい及びふれあいの場づくり。 |
| 浜松市佐久間赤十字奉仕団 | 誕生会の実施、ふれあい、施設内整備、食事介助他 |
| 松崎町赤十字奉仕団 | ひとり暮らし高齢者等に緊急連絡先の記載されたもの（救急医療情報キット）を配布し、災害時や救急時に迅速な対応がとれるようにする。 |
| 計 | 8 団 |

## ７　国　際　活　動

世界各地では、今もなお民族の対立や政治経済の混乱などに起因する様々な紛争や、風水害、干ばつ、地震などの自然災害が多発し、その犠牲者や被災者は、依然として増加する傾向にある。災害時の人道的活動は赤十字活動の基本であり、日本赤十字社は、国際赤十字の一員として、各国の赤十字・赤新月社、赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟と連携して｢国際救援｣と「開発協力」の活動を展開している。

静岡県支部は第３ブロック支部と共同して国際活動に参加するとともに、海外救援活動への募集を「ＮＨＫ海外たすけあい」活動を通じて実施した。

### （１）　国際救援と開発協力

日本赤十字社は、自然災害等によって被害を受けた国の人々のために、国際赤十字の救援活動に従事する国際救援要員を派遣し、被災国の赤十字社の組織運営強化に結びつく援助を行っている。

アジアや太平洋地域を中心とした開発途上国においては、貧困による教育や医療水準の低さ､保健衛生施設の不備などのために多くの人が苦しみ､困難な生活を強いられている。静岡県支部は、本年度、第３ブロック支部共同事業としてベトナム災害対策事業、青少年教育等支援事業（モンゴル）に加え、新たにアジア・大洋州給水・衛生キット支援事業に参加した。

| | 対象国 | 所　要　額<br>（単位：千円） | 事　　業　　内　　容 |
|---|---|---|---|
| 23年度 | ベトナム | 11,000<br>（静岡2,090） | 植林（災害防止、耕作地の造成）対策地域の拡大、台風被害の多い地域への災害対策等 |
| | モンゴル | 6,000<br>（静岡　1,140） | 文具などの学用品の提供、保健・衛星知識・救急法研修などの実施による青少年赤十字・赤新月メンバーの活動支援、トイレや保健室などの衛生環境の改善等 |
| | アジア・大洋州 | 3,000<br>（静岡570） | 洪水やサイクロン等の増加に伴い、災害時の迅速な給水、衛生活動の展開するための「給水、衛生キット」の調達、災害多発国・地域への配備、スタッフ研修等 |
| 22年度 | ベトナム | 11,000<br>（静岡　2,090） | 沿岸北部 8 省の 2,300 ヘクタールにマングローブを植林（災害防止、耕作地の造成）、 住民の生活向上等 |
| | モンゴル | 6,000<br>（静岡　1,140） | モンゴル赤十字社が選定した学校に文具セットを提供。青少年の教育等活動について支援 |
| | アジア・大洋州 | 3,000<br>（静岡570） | 洪水やサイクロン等の増加に伴い、災害時の迅速な給水、衛生活動の展開するための「給水、衛生キット」の開発及び資機材の備蓄事業。 |

## （２） 「ＮＨＫ海外たすけあい」等海外救援金

日本赤十字社は、昭和５８年からＮＨＫと共催し、アジア、アフリカ地域を中心とする発展途上国の災害救援、難民救援、保健衛生の向上などの援助を目的とした「ＮＨＫ海外たすけあい」を実施している。

静岡駅での「ＮＨＫ海外たすけあい」ＰＲ活動

### 「ＮＨＫ海外たすけあい」受付状況（静岡県支部扱い分）

| | 第 29 回<br>(23. 12. 1～23. 12. 25) | | 第 28 回<br>(22. 12. 1～22. 12. 25) | | 第 27 回<br>(21. 12. 1～21. 12. 25) | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1． 全体目標額 | 8 億円 2,700 万円 | | 10 億円 | | 10 億円 | |
| 2． 実 績 額 | 5 億 3,384 万円 | | 6 億 8,697 万円 | | 6 億 9,771 万円 | |
| 3． 本県の概要 | 件 | 円 | 件 | 円 | 件 | 円 |
| 1）本社取扱額 | 850 | 7,741,382 | 1,095 | 16,532,723 | 1,169 | 19,315,540 |
| 2）支部取扱額 | 59 | 526,119 | 51 | 906,074 | 62 | 920,423 |
| 3）ＮＨＫ取扱額 | 124 | 1,284,638 | 180 | 1,633,513 | 170 | 1,497,237 |
| 4）地方銀行取扱額 | 16 | 143,948 | 19 | 317,076 | 19 | 391,430 |
| 5）農・魚協取扱額 | 26 | 180,662 | 32 | 209,857 | 48 | 222,015 |
| 合 計 | 1075 | 9,876,749 | 1,377 | 22,346,645 | 1,469 | 28,627,538 |

## ８　社 業 振 興 事 業

日本赤十字社は、社員をもって組織する法人(日本赤十字社法第４条)であり、その活動は社員の拠出する社費（年額 500 円以上）と一般からの寄付金によって運営されている。したがって、社員の増強は赤十字事業の推進に欠くべからざるものである。

今年度は、東日本大震災義援金受付と社資募集が重なり、両者の差異についての周知が県民に不十分であったことや、厳しい経済環境の中で、法人からの社資収入、高額寄付者の協力が減少したことなどから、社資収納額は本年度目標額に比べ 2,142 万円減、前年度に比べ 2,694 万円減の 5 億 2,355 万円余となっている。

### （１）　全戸社員加入運動

５月１日が日本赤十字社創立記念日、５月８日が赤十字の創始者アンリー・デュナン生誕を記念しての世界赤十字デーであることから、毎年５月を赤十字社員増強月間として県下一斉に『社員増強運動』を展開している。

社員制度は、本来個人が赤十字の趣旨に賛同して加入するものであるが、より多くの県民に加入願うため、本年度も『一世帯に一人以上は赤十字社員に』を目標として、地区分区関係者をはじめ、協賛委員会、自治会、奉仕団、有功会等の協力を得て社員の増強に努め、加入意思の確認を行った。結果として社員数は、789,416 人となった。

### （２）　特別社員、高額寄付者の増強

社員が能力に応じて協力する体制の樹立こそ社員組織確立の理想の姿であるので、2,000 円以上拠出する特別社員の増強に努めた。

また、赤十字事業を強力に推進するために、高額寄付者の増強について、機会あるごとに要請してきたが、引き続いて奉仕者の格段の理解と協力を得て増強に努める必要がある。

本年度も、ダイレクトメールにより社資の増強を図り、その結果 14,377,931 円の協力を得た。

### （３）　法人社員の増強

社員の増強を図るためには、法人の協力を求めることが不可欠であるので、県下の法人を対象に、直接訪問するほかダイレクトメールにより協力を求めたところ、指定事業社資収入（４月１日から９月３０日迄の期間で全額損金算入）11,560,631 円、その他法人社資収入 17,509,479 円、計 29,070,110 円の協力を得ることができた。

### （４）　赤十字チャリティーボックスの設置

県内の地域赤十字奉仕団とＪＡ静岡中央会の協力により、県下各地域の商店、スーパーマーケット、ホテル、公民館、ＪＡ関係機関等 1,043 ヵ所に赤十字チャリティーボックスを設置した。収納状況については、1,335,057 円の実績をあげることができた。

## （5） 平成２３年度社資収納額及び社員数

本年度の社資収納額は、目標額 545,000,000 円を下回る 523,577,788 円となった。

### 平成２３年度　社資収納額及び社員数状況

| 地区分区名 | 目標額［円］ | 社資収納額［円］ | 達成率［％］ | 社員数［人］ |
|---|---|---|---|---|
| 下田市 | 3,947,000 | 3,580,955 | 90.7 | 56 |
| 伊東市 | 11,010,000 | 8,547,555 | 77.6 | 9,123 |
| 熱海市 | 8,034,000 | 3,806,780 | 47.4 | 2,403 |
| 伊豆市 | 5,275,000 | 5,814,000 | 110.2 | 9,851 |
| 伊豆の国市 | 6,801,000 | 6,190,000 | 91.0 | 11,513 |
| 三島市 | 16,344,000 | 14,058,300 | 86.0 | 23,169 |
| 沼津市 | 31,391,000 | 35,069,380 | 111.7 | 49,943 |
| 裾野市 | 7,861,000 | 7,959,500 | 101.3 | 13,744 |
| 御殿場市 | 12,124,000 | 12,219,350 | 100.8 | 21,555 |
| 富士宮市 | 18,940,000 | 18,765,637 | 99.1 | 36,207 |
| 富士市 | 35,643,000 | 31,957,300 | 89.7 | 56,977 |
| 静岡市 | 100,790,000 | 82,853,586 | 82.2 | 109,876 |
| 葵・駿河区 | 66,799,000 | 48,725,886 | 72.9 | 49,361 |
| 清水区 | 33,991,000 | 34,127,700 | 100.4 | 60,515 |
| 焼津市 | 19,558,000 | 23,691,728 | 121.1 | 43,974 |
| 藤枝市 | 19,413,000 | 20,029,206 | 103.2 | 36,037 |
| 島田市 | 13,563,000 | 13,794,435 | 101.7 | 25,349 |
| 牧之原市 | 5,978,000 | 8,061,421 | 134.9 | 752 |
| 御前崎市 | 4,320,000 | 5,811,200 | 134.5 | 8,236 |
| 菊川市 | 5,558,000 | 5,916,108 | 106.4 | 295 |
| 掛川市 | 14,555,000 | 16,976,100 | 116.6 | 11,706 |
| 袋井市 | 10,534,000 | 10,582,500 | 100.5 | 20,734 |
| 磐田市 | 21,382,000 | 21,904,813 | 102.4 | 40,281 |
| 浜松市 | 110,111,000 | 105,542,473 | 95.9 | 174,425 |
| （浜松市中区） |  | (31,625,736) | − | 174,425 |
| （浜松市東区） |  | (16,949,355) | − | 174,425 |
| （浜松市西区） |  | (13,738,389) | − | 174,425 |
| （浜松市南区） |  | (11,622,741) | − | 174,425 |
| （浜松市北区） |  | (11,596,269) | − | 174,425 |
| （浜松市浜北区） |  | (14,430,694) | − | 174,425 |
| （浜松市天竜区） |  | (5,579,289) | − | 174,425 |
| 湖西市 | 7,844,000 | 8,396,100 | 107.0 | 16,378 |
| （地区計） | 490,976,000 | 471,528,427 | 96.0 | 722,584 |
| 東伊豆町 | 2,010,000 | 1,802,000 | 89.7 | 3,242 |
| 河津町 | 1,178,000 | 1,173,000 | 99.6 | 2,341 |
| 南伊豆町 | 1,401,000 | 1,359,800 | 97.1 | 2,678 |
| 松崎町 | 1,211,000 | 1,841,500 | 152.1 | 2,797 |
| 西伊豆町 | 1,613,000 | 1,700,400 | 105.4 | 3,391 |
| 函南町 | 5,387,000 | 4,201,500 | 78.0 | 8,326 |
| 清水町 | 4,812,000 | 5,328,050 | 110.7 | 9,761 |
| 長泉町 | 6,154,000 | 6,738,000 | 109.5 | 11,549 |
| 小山町 | 3,071,000 | 4,439,500 | 144.6 | 5,344 |
| 吉田町 | 3,526,000 | 4,296,500 | 121.9 | 7,048 |
| 川根本町 | 1,160,000 | 1,486,000 | 128.1 | 2,859 |
| 森町 | 2,389,000 | 3,081,000 | 129.0 | 5,730 |
| （分区計） | 33,912,000 | 37,447,250 | 110.4 | 65,066 |
| （地区分区計） | 524,888,000 | 508,975,677 | 97.0 | 787,650 |
|  |  |  |  |  |
| 支部扱い | 20,112,000 | 14,602,111 | 72.6 | 1,766 |
| （総計） | 545,000,000 | 523,577,788 | 96.1 | 789,416 |

**（6）　全国赤十字大会の開催**

平成２３年全国赤十字大会は、３月１１日に発生した東日本大震災のため中止となった。

**（7）　静岡県協賛委員会の開催**

社資の募集は、そのほとんどが自治会、町内会あるいは奉仕団の方々が直接各戸を訪問して行っている。市町の自治会、町内会の役員で構成されている静岡県協賛委員会を開催し、赤十字の事業内容及び社員増強運動について説明している。本年度も４月と１１月の２回開催した。

・静岡県協賛委員会役員

会長　　鈴木　健治　　副会長　　秋山鋭次郎　　鈴木　秀旺　　小野　晧

**（8）　静岡県有功会**

有功章受章者で組織している日本赤十字社静岡県有功会は、会員の親睦と赤十字事業の支援を目的として昭和４３年に結成された。以来赤十字協力団体としての活動を続けており、平成２４年３月現在の会員数は６７０人となっている。

本年度も総会を５月に開催し、平成２２年度事業報告及び決算、平成２３年度事業計画及び予算等が審議された。その後、静岡福祉文化実践研究所　平田厚氏による「私が変わる、地域が変わる　今こそ、取り戻そう『ご近所の絆』」と題した講演が行われた。

・静岡県有功会役員

会長　　大久保芳夫　　副会長　　髙橋　和雄　　清水謙太郎　　山口　喜平

静岡市葵区で開催された有功会総会の様子

**平成２３年度　有功章及び感謝状受章者数**

| 地区分区名＼受章区分 | 金色有功章 | | 銀色有功章 | | 社長感謝状 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 個人 | 法人 | 個人 | 法人 | 個人 | 法人 |
| 熱海市 | 1 | | 3 | | | |
| 伊豆の国市 | | | | | | |
| 三島市 | | | 1 | | 2 | 1 |
| 沼津市 | 3 | | 1 | | 1 | |
| 裾野市 | | | 2 | | | |
| 御殿場市 | | | 4 | | | |
| 富士市 | | 1 | | 2 | | |
| 静岡市清水区 | | | 2 | | 1 | |
| 静岡市葵・駿河区 | | | 1 | 1 | 1 | |
| 焼津市 | | | | 3 | | |
| 藤枝市 | | | | 2 | | 1 |
| 牧之原市 | | | | 1 | | |
| 御前崎市 | | | | 3 | | |
| 掛川市 | | 1 | | 4 | | |
| 磐田市 | 1 | | | | | |
| 浜松市中区 | | | | | 1 | |
| 浜松市東区 | | | | | | 1 |
| 浜松市北区 | | | 1 | | | |
| 浜松市浜北区 | | | | 1 | 1 | |
| 湖西市 | 1 | | | | | |
| 松崎町 | | | | 2 | | |
| 小山町 | | 1 | | 1 | | |
| | | | | | | |
| 支部扱い | | | 3 | | 2 | 1 |
| 支部扱い(施設) | 3 | 1 | | | 2 | |
| 合計 | 9 | 4 | 18 | 20 | 11 | 4 |

## （9） 赤十字思想の普及

赤十字社員増強運動の展開、諸事業の推進については、県民の皆様の赤十字に対する理解が必要である。そのため、あらゆる事業や、諸活動を通して赤十字思想の普及を図り、わかりやすい啓発広報活動に努めた。

静岡市内に掲出された横断幕

① 社資募集チラシの作製　県下全戸に配布 約 90 万部

② 静岡新聞全県版・中日新聞遠州版に全５段
　モノクロ広告を掲載（５月１日）

③ 機関誌「赤十字しずおか」を年３回発行、自治会
　配布（発行部数約 201,000 部）

④ 赤十字啓発用本社作製テレビスポットＣＭの放映
　(民放４社)

　ローカル番組「地震防災チェック」の放映
　（７月～１月　８回）

⑤ 赤十字啓発用本社作製ラジオスポットＣＭ及び静岡県支部作製ラジオＣＭの放送

⑥ ラジオ番組生出演（５月　５回）

⑦ 世界赤十字デーキャンペーン

・静岡県支部（５月１４日　静岡市葵区　青葉イベント広場）
　東日本大震災活動報告、赤十字事業の紹介展示、災害救援品展示紹介コーナー、子供救護服の撮影コーナー、炊き出し及び AED 体験コーナー、ミニ点字講習会、静岡県芸能赤十字奉仕団による大道芸パフォーマンス、献血コーナー　等

・静岡赤十字病院（５月１０日～１２日）　健康・栄養・薬の相談、血管年齢測定、癒しのハンドケアー　他

・浜松赤十字病院・引佐赤十字病院（６月２５日　サンストリート浜北）救護活動・義援金の報告、看護・栄養・薬の相談、血圧・体脂肪測定、献血コーナー　他

・裾野赤十字病院（５月２２日 裾野市中央公園）栄養・薬・看護の相談、血圧測定、パネル展示、写真撮影コーナー　他

⑧ 拝郷メイコさんによるキャンペーンソング「ヒカリ」作製、チャリティーダウンロード

⑨ 県内のタクシーに赤十字運動用ステッカーの貼付　6,300 枚

⑩ 本社作製の赤十字新聞（毎月１回の発行）を赤十字関係者に配布　2,400 部

⑪ 支部玄関に赤十字イメージのＰＲ用グラフィックシートを貼付

⑫ 静岡市内の街中掲示板（デジタルサイネージ）を通じて街頭広報

⑬ 静岡市葵区呉服町（呉服町通り）に赤十字運動月間広報用横断幕掲出

⑭ 本社・支部からの情報をメールマガジンで配信（毎月２回）

⑮ インターネット・ホームページ
　インターネットの利用者に対する赤十字事業の広報活動として、ホームページを開設し、社資募集への理解・協力、各種講習会、赤十字県内施設の紹介など、各種情報を発信している。
　ホームページアドレス　　http://www. shizuoka. jrc. or. jp

## ９　評議員会

静岡県支部の事業は、定款に従い、評議員会に諮り、各地区分区の協力を得て進めている。また、各会議等を通じて、管下各施設、奉仕団、青少年赤十字、ボランティア等との連携を図り、各事業を推進している。

前期評議員会

平成２３年６月１３日、日本赤十字社静岡県支部（静岡市）において開催し、次の議案を提出し、原案どおり承認された。

第１号議案　平成２２年度歳入歳出決算について

第２号議案　日本赤十字社静岡県支部監査委員の選出について

第３号議案　日本赤十字社代議員の選出について

後期評議員会

平成２４年２月６日、日本赤十字社静岡県支部（静岡市）において開催し､次の議案を提出し､原案どおり承認された。

第１号議案　平成２４年度事業計画について

第２号議案　平成２４年度歳入歳出予算について

第３号議案　日本赤十字社代議員の選出について

文書審議

（1）平成２３年４月７日、文書により次の議案を提出し、原案どおり承認された。

第１号議案　日本赤十字社静岡県支部副支部長の選出について

（2）平成２３年７月２２日、文書により次の議案を提出し、原案どおり承認された。

第１号議案　日本赤十字社静岡県支部副支部長の選出について

第２号議案　日本赤十字社代議員の選出について

## １０　一般会計決算概要

歳　　入　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(単位：円)

| 科　目 | 予算現額 | | | 決算額 | 予算現額に比し増減 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 当初予算額 | 補正予算額 | 計 | | |
| 社資収入 | 545,000,000 | 0 | 545,000,000 | 523,577,788 | △ 21,422,212 |
| 一般社資収入 | 510,000,000 | 0 | 510,000,000 | 494,507,678 | △ 15,492,322 |
| 法人社資収入 | 35,000,000 | 0 | 35,000,000 | 29,070,110 | △ 5,929,890 |
| 補助金及び交付金 | 1,008,000 | 0 | 1,008,000 | 1,619,370 | 611,370 |
| 本社交付金収入 | 1,008,000 | 0 | 1,008,000 | 1,619,370 | 611,370 |
| 繰入金収入 | 13,140,000 | 0 | 13,140,000 | 13,497,956 | 357,956 |
| 資金繰入金収入 | 0 | 0 | 0 | 357,956 | 357,956 |
| 他会計等繰入金収入 | 13,140,000 | 0 | 13,140,000 | 13,140,000 | 0 |
| 雑収入 | 13,436,000 | 0 | 13,436,000 | 10,754,619 | △ 2,681,381 |
| 利子収入 | 61,000 | 0 | 61,000 | 26,421 | △ 34,579 |
| 負担金収入 | 12,571,000 | 0 | 12,571,000 | 7,111,297 | △ 5,459,703 |
| 雑収入 | 804,000 | 0 | 804,000 | 3,616,901 | 2,812,901 |
| 前年度繰越金 | 46,385,000 | 0 | 46,385,000 | 66,476,333 | 20,091,333 |
| 歳入合計 | 618,969,000 | 0 | 618,969,000 | 615,926,066 | △ 3,042,934 |

歳　　出　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（単位:円）

| 科　目 | 予　算　現　額 | | | | 決算額 | 不用額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 当初予算額 | 補正予算額 | 流用増減額 | 計 | | |
| 災害救護事業費 | 62,586,000 | 9,000,000 | 0 | 71,586,000 | 70,010,758 | 1,575,242 |
| 災害救護指導事業費 | 15,656,000 | 2,000,000 | 0 | 17,656,000 | 16,071,751 | 1,584,249 |
| 災害救護装備費 | 20,086,000 | 4,000,000 | 0 | 24,086,000 | 24,280,318 | △ 194,318 |
| 非常災害救援物資整備費 | 150,000 | 3,000,000 | 0 | 3,150,000 | 3,303,380 | △ 153,380 |
| 救護看護師指導養成費 | 26,694,000 | 0 | 0 | 26,694,000 | 26,355,309 | 338,691 |
| 社会活動費 | 112,188,000 | △ 9,000,000 | 0 | 103,188,000 | 91,171,539 | 12,016,461 |
| 救急法等普及費 | 54,583,000 | △ 8,000,000 | 0 | 46,583,000 | 43,933,982 | 2,649,018 |
| 奉仕団活動費 | 14,455,000 | 0 | 0 | 14,455,000 | 11,814,878 | 2,640,122 |
| 青少年赤十字活動費 | 19,633,000 | 0 | 0 | 19,633,000 | 17,022,207 | 2,610,793 |
| 社会福祉活動費 | 1,830,000 | 0 | 0 | 1,830,000 | 1,249,000 | 581,000 |
| 医療事業費 | 12,479,000 | 0 | 0 | 12,479,000 | 10,598,481 | 1,880,519 |
| 血液事業費 | 9,208,000 | △ 1,000,000 | 0 | 8,208,000 | 6,552,991 | 1,655,009 |
| 国際活動費 | 4,488,000 | 0 | 0 | 4,488,000 | 4,217,600 | 270,400 |
| 指定事業地方振興費 | 30,000,000 | 0 | 0 | 30,000,000 | 28,377,811 | 1,622,189 |
| 地区分区交付金支出 | 95,680,000 | 0 | 0 | 95,680,000 | 90,592,598 | 5,087,402 |
| 社業振興費 | 54,963,000 | 0 | 0 | 54,963,000 | 51,292,050 | 3,670,950 |
| 社業振興費 | 24,665,000 | 0 | 0 | 24,665,000 | 25,072,090 | △ 407,090 |
| 広報活動費 | 30,298,000 | 0 | 0 | 30,298,000 | 26,219,960 | 4,078,040 |
| 基盤整備交付金･補助金 | 13,045,000 | 1,000,000 | 0 | 14,045,000 | 13,425,162 | 619,838 |
| 積立金支出 | 65,811,000 | 0 | 0 | 65,811,000 | 64,505,152 | 1,305,848 |
| 資金積立金支出 | 55,000,000 | 0 | | 55,000,000 | 55,000,000 | 0 |
| 退職給与資金特別会計積立金 | 10,811,000 | 0 | | 10,811,000 | 9,505,152 | 1,305,848 |
| 総務管理費 | 78,742,000 | △ 1,000,000 | 0 | 77,742,000 | 70,249,836 | 7,492,164 |
| 評議員会等諸費 | 516,000 | 0 | 0 | 516,000 | 290,486 | 225,514 |
| 総務管理費 | 78,226,000 | △ 1,000,000 | 0 | 77,226,000 | 69,959,350 | 7,266,650 |
| 資産取得及び資産管理費 | 23,216,000 | 0 | 0 | 23,216,000 | 21,606,310 | 1,609,690 |
| 本社送納金支出 | 74,250,000 | 0 | 0 | 74,250,000 | 72,545,901 | 1,704,099 |
| 予備費 | 4,000,000 | 0 | 0 | 4,000,000 | 0 | 4,000,000 |
| 歳出合計 | 618,969,000 | 0 | 0 | 618,969,000 | 577,994,717 | 40,974,283 |

歳入合計　615,926,066 円　　　　　　　　歳出合計　577,994,717 円

歳入歳出差引額　37,931,349円（翌年度繰越額）

資金増減明細表

（単位:円）

| 資金別 | | 前年度末現在額 | 平成23年度中 | | | | 平成23年度積立金 | 平成23年度末現在額 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 増 | | 減 | 差引額(A)+(B)-(C) | | |
| | | | 利子収入(A) | 差益金額(B) | 元本繰出金(C) | | | |
| 災害等資金 | | 1,052,771,467 | 1,592,002 | 0 | 0 | 1,592,002 | 25,000,000 | 1,079,363,469 |
| 国際救護活動資金 | 国際救護活動資金(社資収入) | 46,144,121 | 9,203 | 0 | 0 | 9,203 | 0 | 46,153,324 |
| | 支部国際活動基金(個人住民税控除適用) | 11,979,613 | 2,388 | 0 | 0 | 2,388 | 0 | 11,982,001 |
| | 支部国際活動基金(個人住民税控除適用海外救援金) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 施設整備準備資金 | | 558,321,259 | 1,942,424 | 0 | 0 | 1,942,424 | 30,000,000 | 590,263,683 |
| 特別退職金積立留保金 | | 19,428,890 | 3,889 | 0 | 357,956 | △ 354,067 | 0 | 19,074,823 |
| 計 | | 1,688,645,350 | 3,549,906 | 0 | 357,956 | 3,191,950 | 55,000,000 | 1,746,837,300 |

# Ⅱ　医療事業・医療事業特別会計決算概要

県下に５つの赤十字病院を組織し、災害時は救護活動、平時には一般医療・救急医療・健康相談等医療社会活動を実施し、地域住民の医療確保と福祉の増進に努めている。

## １　静岡赤十字病院

### （１）　診療状況の概要

| 病床数 | | 職員数 | | | | 入院患者数 | | | 外来患者数 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 許可病床数 | 実働病床数 | 医師 | 看護師 | その他 | 計 | 延数 | １日平均 | １日平均前年比 | 延数 | １日平均 | １日平均前年比 |
| 床 | 床 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | % | 人 | 人 | % |
| 517 | 447 | 122.0 | 382.5 | 293.6 | 798.1 | 141,161 | 385.7 | 88.6 | 237,211 | 972.2 | 97.2 |

### （２）　医療施設の経営状況

医療を取り巻く環境がより厳しくなっている中で、地域の中核病院として患者から選ばれる病院を目指し以下の事項を推進した。

①　質の高い医療の提供

内科・整形外科・麻酔科・放射線科の常勤医師を増員、また、医師の事務作業緩和を図るために医師事務作業補助者を６名増員し 15 名体制とし、質の高い急性期医療を効率的に供給する診療体制の充実、強化を図った。

②　看護体制の整備

認定看護師の資格取得を推進し、現在 11 名の認定看護師を有している。看護職員は前年度より年間平均 9.6 名増となり、7 対 1 入院基本料をはじめとする各施設基準の維持と、質の高い看護の提供に努めた。

③　地域医療連携の推進

平成 22 年度に取得した地域医療支援病院の維持に加え、総合入院体制加算の取得（平成 24 年 5 月）に向け、入院患者の退院後における逆紹介の推進等を図るなど要件充足に努めた。本年度の紹介率は 54.0%、逆紹介率は 69.7%であった。

④　救命救急医療の充実

救命救急センターの取扱い患者数は 13,904 名で、うち入院患者数は 3,151 名。救急車搬入台数は 5,331 台あり、平成 22 年度より 134 台増加した。救急専従医を中心に、救命救急センターとしての機能強化を図った。

⑤　安心・安全な医療提供体制の強化

年 2 回の全職員対象の医療に係る安全管理と感染管理の研修にビデオによる研修を取り入れ、より多くの職員の参加を得た。

また、年間約 20 回の各種研修会を開催して、安全教育など職員の研究・研修に努めた。

⑥　初期臨床研修医教育

本年度は新たに 12 名の初期臨床研修医を迎え、計 23 名の研修医教育を行い、将来の医療を担う医師の育成に努めた。後期臨床研修医は一般公募により、内科 4 名・神経内科

1名・外科2名を受入れた。

⑦　病院の施設整備計画

病院増改築工事は、第1期工事（全4期）進行中であり、23年度は新築の新別館建築と、既存の本館、別館の改修工事、西館の取壊しが進行した。これにより実働病床数は23年8月より447床となり26床減少した。また、一部の外来を本館8階に移動するなどしたほか、24年4月からの院外処方に切り替えるための準備を行った。

24年度に新別館竣工、26年度に全面竣工を予定している。

⑧　医療器機の整備

超音波診断装置および下肢静脈治療用レーザー一式などの高度な医療機器等を整備し医療レベルの向上を図った。

⑨　災害救護活動

平成23年3月11日に発生した東日本大震災においては、平成23年6月23日で救護活動を終えたが、医療救護班9個班延べ72名（医師・看護師・薬剤師・事務）を、順次、派遣し、石巻赤十字病院には、支援要員（看護師・薬剤師・事務・臨床工学技師）17名を派遣した。

## （3）　決算概要

収益的収入および支出

(単位:円)

| 科　目 | 予算現額 | | | 決算額 | 予算現額に比し増減 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 当初予算額 | 補正予算額 | 計 | | |
| 病院収益 | 13,578,791,000 | 40000000 | 13,618,791,000 | 13,588,470,129 | △ 30,320,871 |
| 医業収益 | 13,233,460,000 | 0 | 13,233,460,000 | 13,144,545,462 | △ 88,914,538 |
| 医業外収益 | 337,931,000 | 10000000 | 347,931,000 | 410,128,083 | 62,197,083 |
| 医療社会事業収益 | 7,400,000 | 0 | 7,400,000 | 4,149,408 | △ 3,250,592 |
| 特別利益 | 0 | 30000000 | 30,000,000 | 29,647,176 | △ 352,824 |

| 科　目 | 予算現額 | | | | 決算額 | 不用額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 当初予算額 | 補正予算額 | 流用増減 | 計 | | |
| 病院費用 | 13,330,143,000 | 225,794,000 | 0 | 13,555,937,000 | 13,525,760,140 | 30,176,860 |
| 医業費用 | 12,883,103,000 | 190,794,000 | 8,606,000 | 13,082,503,000 | 13,080,443,474 | 2,059,526 |
| 医業外費用 | 299,338,000 | 0 | 0 | 299,338,000 | 271,687,061 | 27,650,939 |
| 医療奉仕費用 | 85,129,000 | 0 | 0 | 85,129,000 | 84,663,923 | 465,077 |
| 特別損失 | 30,000,000 | 35,000,000 | 19,766,000 | 84,766,000 | 84,765,325 | 675 |
| 法人税等 | 2,573,000 | 0 | 1,628,000 | 4,201,000 | 4,200,357 | 643 |
| 予備費 | 30,000,000 | 0 | △ 30,000,000 | 0 | 0 | 0 |
| 収支差引額 | 248,648,000 | △ 185,794,000 | 0 | 62,854,000 | 62,709,989 | — |

資本的収入および支出

(単位:円)

| 科　目 | 予算現額 | | | | 決算額 | 予算現額に比し増減 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 当初予算額 | 補正予算額 | 前年度事業費繰越額 | 計 | | |
| 病院収入 | 4,040,750,000 | 50,000,000 | 0 | 4,090,750,000 | 1,347,058,587 | △ 2,743,691,413 |
| 固定負債 | 3,503,565,000 | | 0 | 3,503,565,000 | 888,788,650 | △ 2,614,776,350 |
| その他資本収入 | 537,185,000 | 50,000,000 | 0 | 587,185,000 | 458,269,937 | △ 128,915,063 |

| 科　目 | 予算現額 | | | | 決算額 | 不用額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 当初予算額 | 補正予算額 | 前年度繰越事業費充当額 | 計 | | |
| 病院費 | 4,040,750,000 | 50,000,000 | 0 | 4,090,750,000 | 1,347,058,587 | 2,743,691,413 |
| 固定資産 | 3,636,281,000 | 0 | 0 | 3,636,281,000 | 1,010,002,609 | 2,626,278,391 |
| 借入金等償還 | 404,469,000 | 50,000,000 | 0 | 454,469,000 | 337,055,978 | 117,413,022 |
| 収支差引額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |

利益剰余金

(単位:円)

| 当期未処分利益(損失)A(a+b) | 前期繰越利益(損失) a | 当期純利益(損失) b | 利益積立金B | 利益剰余金合計(A+B) |
|---|---|---|---|---|
| 3,260,530,300 | 3,197,820,311 | 62,709,989 | 521,200,000 | 3,781,730,300 |

## ２　浜松赤十字病院

### （１）　診療状況の概要

| 病　床　数 | | 職　　員　　数 | | | | 入院患者数 | | | 外来患者数 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 許　可<br>病床数 | 実　働<br>病床数 | 医　師 | 看護師 | その他 | 計 | 延　数 | 1日<br>平均 | 1日平均<br>前年比 | 延　数 | 1日<br>平均 | 1日平均<br>前年比 |
| 床<br>312 | 床<br>312 | 人<br>47.5 | 人<br>267.1 | 人<br>174.4 | 人<br>489.0 | 人<br>84,502 | 人<br>230.9 | %<br>101.5 | 人<br>110,093 | 人<br>451.2 | %<br>99.8 |

### （２）　訪問看護ステーションの状況

| 名　称 | 利用者数　　人 | 訪問看護延回数　回 | 従事者数　　人 | サービス内容 |
|---|---|---|---|---|
| 日赤訪問看護ステーション | 139 | 5,035 | 7.6 | 訪問看護、訪問リハビリ等 |
| 訪問看護ステーション高林 | 140 | 6,180 | 8.4 | 訪問看護,訪問リハビリ,居宅介護支援 |

### （３）　医療施設の経営状況

地域医療支援病院として、基本理念の「住民に信頼される地域中核病院」を目指し、基本方針の「生産性の高い病院経営と明るく働きがいのある職場環境づくり」のために、以下の事項を重点に推進した。

**①診療機能と体制の充実**

病床規模は、23 年 10 月に休床病棟 52 床をオープンし 312 床となった。また、輪番制二次救急当番日の当直医を１名増員し、救急患者受け入れ体制の強化を図った。さらに、地域医療支援病院として、紹介率及び逆紹介率のアップを図るため、病診連携、病病連携の強化・充実に取り組んでいる。

**②医師の増員**

休止している分娩実施のための産科医の確保をはじめ、脳外科、消化器内科、眼科など不足している医師招聘のため大学医局訪問を積極的に行った。この結果、産科医や眼科医の増員は困難なものの、23 年 11 月には、内科医 2 名が増員され、さらに 24 年度からの脳外科医 1 名増員、リハビリ科医 1 名の確保が図れ、移転当初の医師 29 人から、現在は 43 人の体制となっている。また、研修医や医大生に対する病院説明会へのブース出展参加と病院見学会を積極的に行った。さらに、医師事務作業補助者を増員し医師の業務負担軽減と定着化を図った。

**③看護師の増員**

看護師確保のため、看護大学や看護学校への訪問とともに奨学生確保のための高等学校訪問を行った。この結果、看護師の増員ができ、全床での入院受け入れが可能となった。

また、ホームページ、電車の広告及び看護師紹介業者の利用等により他院からの転職者の確保も行った。さらに、院内保育所の拡充や職員駐車場の増設による勤務環境改善などにより離職者の減少策を進めた。

**④病院経営の生産性向上**

経営改善のための行動計画を数値化、見える化し、進捗状況の共有化とともに、委託等を含めた職員全員で「一人一改善」による職場改善活動を推進した。

**⑤明るく働きがいのある職場づくり**

行動計画で、「あいさつ、スマイル運動」を推進し、接遇向上に努めた。また、ボランティア活動を重視し、120 人を超えるボランティアが院内外で多様な活動を実施した。

**⑥広報活動の強化**

「浜松日赤ニュース」の活用やホームページの充実とともに、「日赤いきいき健康塾」、「納涼祭」、「院内コンサート」などを実施し、地域住民との交流、PR に努めた。

## （４）　訪問看護ステーションの運営

①栄養・食事療法の相談や指導、訪問看護リハビリテーション等、利用者の快適な生活のために本院と連携して看護、介護の質の向上を図った。

②居宅介護支援・訪問看護の充実とともに、地域の医療・福祉機関との連携強化に努めた。

③各種の研修に参加し、看護及びケア技術の向上に努めた。

## （５）決算概要

収益的収入および支出

(単位:円)

| 科目 | 予算現額 | | | 決算額 | 予算現額に比し増減 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 当初予算額 | 補正予算額 | 計 | | |
| 病院収益 | 7,026,343,000 | 0 | 7,026,343,000 | 6,432,341,624 | △ 594,001,376 |
| 医業収益 | 6,561,484,000 | 0 | 6,561,484,000 | 5,938,607,990 | △ 622,876,010 |
| 医業外収益 | 370,539,000 | 0 | 370,539,000 | 389,288,962 | 18,749,962 |
| 医療社会事業収益 | 2,720,000 | 0 | 2,720,000 | 396,000 | △ 2,324,000 |
| 付帯事業収益 | 90,000,000 | 0 | 90,000,000 | 100,807,940 | 10,807,940 |
| 特別利益 | 1,600,000 | 0 | 1,600,000 | 3,240,732 | 1,640,732 |

| 科目 | 予算現額 | | | | 決算額 | 不用額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 当初予算額 | 補正予算額 | 流用増減 | 計 | | |
| 病院費用 | 7,036,093,000 | 20,000,000 | 0 | 7,056,093,000 | 6,868,781,465 | 187,311,535 |
| 医業費用 | 6,671,096,000 | 0 | 0 | 6,671,096,000 | 6,507,422,384 | 163,673,616 |
| 医業外費用 | 226,622,000 | 10,000,000 | 0 | 236,622,000 | 222,240,410 | 14,381,590 |
| 医療奉仕費用 | 48,500,000 | 0 | 0 | 48,500,000 | 45,014,756 | 3,485,244 |
| 付帯事業費用 | 79,740,000 | 10,000,000 | 884,130 | 90,624,130 | 90,624,130 | 0 |
| 特別損失 | 135,000 | 0 | 2,835,027 | 2,970,027 | 2,970,027 | 0 |
| 法人税等 | 0 | 0 | 509,758 | 509,758 | 509,758 | 0 |
| 予備費 | 10,000,000 | 0 | △ 4,228,915 | 5,771,085 | 0 | 5,771,085 |
| 収支差引額 | △ 9,750,000 | △ 20,000,000 | 0 | △ 29,750,000 | △ 436,439,841 | ― |

資本的収入および支出

(単位:円)

| 科目 | 予算現額 | | | | 決算額 | 予算現額に比し増減 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 当初予算額 | 補正予算額 | 前年度事業費繰越額 | 計 | | |
| 病院収入 | 648,996,000 | 677,000 | 0 | 649,673,000 | 584,346,089 | △ 65,326,911 |
| 固定負債 | 0 | 7,520,000 | 0 | 7,520,000 | 7,483,520 | △ 36,480 |
| その他資本収入 | 648,996,000 | △ 6,843,000 | 0 | 642,153,000 | 576,862,569 | △ 65,290,431 |

| 科目 | 予算現額 | | | | 決算額 | 不用額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 当初予算額 | 補正予算額 | 前年度繰越事業費充当額 | 計 | | |
| 病院費 | 648,996,000 | 677,000 | 0 | 649,673,000 | 584,346,089 | 65,326,911 |
| 固定資産 | 94,630,000 | 0 | 0 | 94,630,000 | 29,303,223 | 65,326,777 |
| 借入金等償還 | 554,366,000 | 677,000 | 0 | 555,043,000 | 555,042,866 | 134 |
| 収支差引額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | ― |

利益剰余金

(単位:円)

| 当期未処分利益(損失)A(a+b) | 前期繰越利益(損失) a | 当期純利益(損失) b | 利益積立金B | 利益剰余金合計(A+B) |
|---|---|---|---|---|
| △ 5,966,179,123 | △ 5,529,739,282 | △ 436,439,841 | 0 | △ 5,966,179,123 |

## ３　引佐赤十字病院

### （１）　診療状況の概要

| 病床数 | | 職員数 | | | | 入院患者数 | | | 外来患者数 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 許可病床数 | 実働病床数 | 医師 | 看護師 | その他 | 計 | 延数 | １日平均 | １日平均前年比 | 延数 | １日平均 | １日平均前年比 |
| 床 | 床 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | % | 人 | 人 | % |
| 99 | 99 | 4.1 | 38.1 | 49.0 | 91.2 | 29,866 | 81.6 | 204.2 | 10,538 | 43.5 | 64.7 |

### （２）　訪問看護ステーションの状況

| 名称 | 利用者数　人 | 訪問看護延回数　回 | 従事者数　人 | サービス内容 |
|---|---|---|---|---|
| 引佐赤十字病院訪問看護ステーションコスモス | 120 | 3,894 | 5.4 | 訪問看護、訪問リハビリ等 |

### （３）　医療施設の経営状況

平成２２年度に本社から「管理病院」に指定されたことを受け、抜本的経営改善に努め、平成２３年１月に４８床を療養病床に病床区分を変更し、本年度は４月に９７床、７月から９９床と稼働病床を増やし、経営健全化計画の目標数値を達成すべく、次の事項について重点的に取り組み、経営改善の取り組みを行った。

①　入院患者の確保

平成２３年度経営健全化計画で病床稼働率８７％以上という目標値を達成すべく入院患者の確保に取り組んだ結果、４月は病床稼働率が５７％だったが、３月には９２％に達し、年度累計としては８３％の病床稼働率となった。目標値は達成できなかったものの病床は一時満床状態になる等、入院患者の確保に努めた。

②　地域連携の強化

地域医療連携係、医療相談係を中心に、聖隷三方原病院をはじめ近隣病院および開業医との連携を強化するため営業活動を強化した結果、年間平均で患者紹介率は６２％を超えており、入院患者確保の一翼を担った。

③　費用の削減

職員は規模に見合った最低限の配置とし､賞与の削減及び看護師以外は低コストな非常勤職員を雇用した結果、人件費の対医業収益負荷率が大幅に減少することができた。

また、診療材料等の統一及び後発医薬品の採用を進め、業務委託等の既存の契約の見直し等、医業費用の削減を行った。

④　安全な医療提供体制の強化

医療安全推進室を中心とした医療事故防止へ向けて研修会等の取り組み、また委員会活動を中心とした院内感染防止体制の強化に努めた。

## （4）　訪問看護ステーションの運営

①　引佐地域唯一の訪問看護ステーションであるため、医療機関・介護機関との連携を積極的に推進し、地域並びに利用者のニーズに応え、理学療法士によるリハビリテーションを訪問看護で行い、地域から信頼される訪問看護を行った。

## （5）　決算概要

収益的収入および支出

(単位:円)

| 科　目 | 予算現額 | | | 決算額 | 予算現額に比し増減 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 当初予算額 | 補正予算額 | 計 | | |
| 病院収益 | 733,051,000 | 0 | 733,051,000 | 794,279,367 | 61,228,367 |
| 医業収益 | 598,542,000 | 0 | 598,542,000 | 593,766,347 | △ 4,775,653 |
| 医業外収益 | 44,951,000 | 0 | 44,951,000 | 94,418,300 | 49,467,300 |
| 医療社会事業収益 | 59,145,000 | 0 | 59,145,000 | 69,086,434 | 9,941,434 |
| 付帯事業収益 | 30,413,000 | 0 | 30,413,000 | 33,907,700 | 3,494,700 |
| 特別利益 | 0 | 0 | 0 | 3,100,586 | 3,100,586 |

| 科　目 | 予算現額 | | | | 決算額 | 不用額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 当初予算額 | 補正予算額 | 流用増減 | 計 | | |
| 病院費用 | 816,388,000 | 5,128,000 | 0 | 821,516,000 | 816,528,218 | 4,987,782 |
| 医業費用 | 677,119,000 | 0 | 0 | 677,119,000 | 673,433,447 | 3,685,553 |
| 医業外費用 | 39,546,000 | 1,000,000 | 0 | 40,546,000 | 39,586,883 | 959,117 |
| 医療奉仕費用 | 68,792,000 | 18,000 | 0 | 68,810,000 | 68,809,822 | 178 |
| 付帯事業費用 | 29,931,000 | 0 | 0 | 29,931,000 | 29,592,795 | 338,205 |
| 特別損失 | 1,000,000 | 4,110,000 | 0 | 5,110,000 | 5,105,271 | 4,729 |
| 法人税等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 予備費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 収支差引額 | △ 83,337,000 | △ 5,128,000 | 0 | △ 88,465,000 | △ 22,248,851 | — |

資本的収入および支出

(単位:円)

| 科　目 | 予算現額 | | | | 決算額 | 予算現額に比し増減 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 当初予算額 | 補正予算額 | 前年度事業費繰越額 | 計 | | |
| 病院収入 | 21,858,000 | 8,451,000 | 0 | 30,309,000 | 21,668,247 | △ 8,640,753 |
| 固定負債 | 0 | 8,426,000 | 0 | 8,426,000 | 8,425,014 | △ 986 |
| その他資本収入 | 21,858,000 | 25,000 | 0 | 21,883,000 | 13,243,233 | △ 8,639,767 |

| 科　目 | 予算現額 | | | | 決算額 | 不用額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 当初予算額 | 補正予算額 | 前年度繰越事業費充当額 | 計 | | |
| 病院費 | 21,858,000 | 8,451,000 | 0 | 30,309,000 | 21,668,247 | 8,640,753 |
| 固定資産 | 12,800,000 | 8,426,000 | 0 | 21,226,000 | 12,605,244 | 8,620,756 |
| 借入金等償還 | 9,058,000 | 25,000 | 0 | 9,083,000 | 9,063,003 | 19,997 |
| 収支差引額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |

利益剰余金

(単位:円)

| 当期未処分利益(損失)A(a+b) | 前期繰越利益(損失) a | 当期純利益(損失) b | 利益積立金B | 利益剰余金合計(A+B) |
|---|---|---|---|---|
| △ 812,848,068 | △ 790,599,217 | △ 22,248,851 | 0 | △ 812,848,068 |

## ４　伊豆赤十字病院

### （１）　診療状況の概要

| 病床数 | | 職員数 | | | | 入院患者数 | | | 外来患者数 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 許可病床数 | 実働病床数 | 医師 | 看護師 | その他 | 計 | 延数 | １日平均 | １日平均前年比 | 延数 | １日平均 | １日平均前年比 |
| 床 | 床 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | % | 人 | 人 | % |
| 94 | 94 | 8.0 | 59.6 | 56.5 | 124.1 | 21,838 | 59.7 | 87.8 | 50,172 | 206.5 | 93.4 |

### （２）　介護老人保健施設の概要　グリーンズ修善寺

| 職員数 | | | 利用者数 | | | | | | | サービス内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 看護師 | その他 | 計 | 通所 定員30人 | | 入所 定員100名 | | 短期入所 | | 居宅介護 | 通所リハビリ<br>入所療養介護<br>短期入所療養介護<br>居宅介護支援 |
| | | | 延数 | １日平均 | 延数 | １日平均 | 延数 | １日平均 | 延数 | |
| 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | |
| 12.6 | 46.0 | 58.6 | 5,709 | 23.5 | 31,950 | 87.3 | 1,597 | 4.4 | 774 | |

### （３）　医療施設の経営状況

小規模病院として厳しい医療環境のなか、病院経営健全化に向けて取り組むとともに、地域に安定的な医療を提供し、市民に選ばれ、信頼に応えるように努めた。

①　診療体制と医療サービスの充実

整形外科および泌尿器科の常勤医師が欠員となり、非常勤医師で対応せざるを得なかった。内科、外科医師の協力のもとで、急性期医療から在宅医療まで地域住民の期待に応えた。医師不足による常勤医師の負担軽減のため医療秘書や社会福祉士等を採用するとともに、チーム医療の推進に取り組み医療サービスの充実に努めた。

②　救急医療と災害医療の充実

１次および２次救急患者を積極的に受け入れる体制を強化したことで、内科、外科の救急医療患者数増となった。東日本大震災においては他施設との合同医療チームによる救護班を編成し、薬剤師、看護師、介護福祉士を積極的に派遣した。

③　地域医療連携の強化

医療連携室長を専従とし、病院、医師会、開業医との病病・病診連携を推進し強化に努めた。

④　検診事業拡大

伊豆市から委託された検診事業、保健指導、高齢者介護事業および人間ドックの充実や、協会けんぽ管掌健診などの受託の拡大・推進に努めた。

### （４） 介護老人保健施設の運営

伊豆赤十字老人保健施設　〈グリーンズ修善寺〉

　病院併設保健施設の強みを活かし、地域の医療・介護施設と連携を図り、介護予防リハビリの推進、より良い介護サービスの提供を目指し、特に通所利用者の増加に積極的に努めた。

## （５） 決算概要

収益的収入および支出

(単位:円)

| 科目 | 予算現額 | | | 決算額 | 予算現額に比し増減 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 当初予算額 | 補正予算額 | 計 | | |
| 病院収益 | 2,044,200,000 | 0 | 2,044,200,000 | 1,948,745,017 | △ 95,454,983 |
| 医業収益 | 1,478,000,000 | 0 | 1,478,000,000 | 1,326,467,485 | △ 151,532,515 |
| 医業外収益 | 52,180,000 | 0 | 52,180,000 | 113,553,229 | 61,373,229 |
| 医療社会事業収益 | 3,000,000 | 0 | 3,000,000 | 2,595,390 | △ 404,610 |
| 付帯事業収益 | 511,000,000 | 0 | 511,000,000 | 504,436,281 | △ 6,563,719 |
| 特別利益 | 20,000 | 0 | 20,000 | 1,692,632 | 1,672,632 |

| 科目 | 予算現額 | | | | 決算額 | 不用額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 当初予算額 | 補正予算額 | 流用増減 | 計 | | |
| 病院費用 | 2,057,400,000 | 19,300,000 | 0 | 2,076,700,000 | 2,030,308,193 | 46,391,807 |
| 医業費用 | 1,522,400,000 | 0 | 0 | 1,522,400,000 | 1,483,802,788 | 38,597,212 |
| 医業外費用 | 53,500,000 | 0 | 0 | 53,500,000 | 49,705,970 | 3,794,030 |
| 医療奉仕費用 | 1,000,000 | 0 | 0 | 1,000,000 | 310,660 | 689,340 |
| 付帯事業費用 | 479,000,000 | 19,000,000 | 0 | 498,000,000 | 494,735,202 | 3,264,798 |
| 特別損失 | 1,500,000 | 300,000 | 0 | 1,800,000 | 1,753,573 | 46,427 |
| 予備費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 収支差引額 | △ 13,200,000 | △ 19,300,000 | 0 | △ 32,500,000 | △ 81,563,176 | — |

資本的収入および支出

(単位:円)

| 科目 | 予算現額 | | | | 決算額 | 予算現額に比し増減 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 当初予算額 | 補正予算額 | 前年度事業費繰越額 | 計 | | |
| 病院収入 | 137,751,000 | 36,465,000 | 0 | 174,216,000 | 128,367,212 | △ 45,848,788 |
| 固定負債 | 56,303,000 | 34,965,000 | 0 | 91,268,000 | 51,119,431 | △ 40,148,569 |
| その他資本収入 | 81,448,000 | 1,500,000 | 0 | 82,948,000 | 77,247,781 | △ 5,700,219 |

| 科目 | 予算現額 | | | | 決算額 | 不用額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 当初予算額 | 補正予算額 | 前年度繰越事業費充当額 | 計 | | |
| 病院費 | 137,751,000 | 36,465,000 | 0 | 174,216,000 | 128,367,212 | 45,848,788 |
| 固定資産 | 57,884,000 | 36,465,000 | 0 | 94,349,000 | 70,151,655 | 24,197,345 |
| 借入金等償還 | 79,867,000 | 0 | 0 | 79,867,000 | 58,215,557 | 21,651,443 |
| 収支差引額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |

利益剰余金

(単位:円)

| 当期未処分利益(損失)A(a+b) | 前期繰越利益(損失) a | 当期純利益(損失) b | 利益積立金B | 利益剰余金合計(A+B) |
|---|---|---|---|---|
| △ 234,273,186 | △ 152,710,010 | △ 81,563,176 | 0 | △ 234,273,186 |

## ５　裾野赤十字病院

### （１）　診療状況の概要

| 病　床　数 | | 職　　員　　数 | | | | 入院患者数 | | | 外来患者数 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 許　可<br>病床数 | 実　働<br>病床数 | 医　師 | 看護師 | その他 | 計 | 延数 | １日<br>平均 | １日平均<br>前年比 | 延数 | １日<br>平均 | １日平均<br>前年比 |
| 床<br>116 | 床<br>105 | 人<br>11.8 | 人<br>57.7 | 人<br>62.2 | 人<br>131.7 | 人<br>30,734 | 人<br>84.2 | %<br>104.9 | 人<br>43,634 | 人<br>161.0 | %<br>95.2 |

### （２）　経営状況

裾野市唯一の公的病院としての使命を果たすべく市民に対して安心安全な医療の提供及び患者サービス向上等に努めた。実質常勤内科医師１名増員により医業収入増となったが、診療体制の充実強化のための看護師確保とＭＲＩ更新整備等の医業費用増の影響により、支出が前年度を上回る収支状況となった。

①　診療体制の充実強化

業務の効率化を徹底するとともに、正規の看護師増員確保をする等、急性期一般病院として、入院外来診療体制の充実に努めた。

②　医療安全体制の充実強化

研修等を定期的に行い、医療安全推進の充実強化を図り、医療業務の安全管理に万全を期した。

③　地域医療連携の充実

地域の医療事情に伴う住民のニーズに合わせ、近隣の医療機関との医療連携の充実を積極的に行った。さらに次年度は地域医療連携課を設置し、一層の充実強化を図っていく予定である。

④　常勤医師の確保

小規模病院の医師確保問題は常に条件的に極めて厳しい状況にあるが、当院として考えられるあらゆる方法を講じて医師確保に努めた結果、常勤内科医師１人の確保ができた。

⑤　看護師の確保

看護師は離職が多いことが常に大きな課題であり、看護体制の充実維持は困難な状況は継続しているが、今年度は必要とされる看護職員数を確保することができた。

⑥　医療機器等の整備

裾野市の補助を受けＭＲＩ等の更新整備を行い、医療機器の充実を図った。また支部からの補助を受けて、災害救護用車両を更新整備し、災害救護装備の充実を図った。

## （３）　決算概要

収益的収入および支出

(単位:円)

| 科　目 | 予算現額 | | | 決算額 | 予算現額に比し増減 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 当初予算額 | 補正予算額 | 計 | | |
| 病院収益 | 1,560,729,000 | 0 | 1,560,729,000 | 1,781,983,010 | 221,254,010 |
| 医業収益 | 1,409,362,000 | 0 | 1,409,362,000 | 1,362,570,303 | △ 46,791,697 |
| 医業外収益 | 151,167,000 | 0 | 151,167,000 | 213,893,961 | 62,726,961 |
| 医療社会事業収益 | 200,000 | 0 | 200,000 | 57,720 | △ 142,280 |
| 特別利益 | 0 | 0 | 0 | 205,461,026 | 205,461,026 |

| 科　目 | 予算現額 | | | | 決算額 | 不用額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 当初予算額 | 補正予算額 | 流用増減 | 計 | | |
| 病院費用 | 1,688,397,000 | 22,000,000 | 0 | 1,710,397,000 | 1,643,653,620 | 66,743,380 |
| 医業費用 | 1,642,497,000 | 17,500,000 | 0 | 1,659,997,000 | 1,600,103,022 | 59,893,978 |
| 医業外費用 | 37,642,000 | 0 | 0 | 37,642,000 | 36,243,749 | 1,398,251 |
| 医療奉仕費用 | 250,000 | 0 | 0 | 250,000 | 219,405 | 30,595 |
| 特別損失 | 2,500,000 | 4,500,000 | 87,444 | 7,087,444 | 7,087,444 | 0 |
| 法人税等 | 508,000 | 0 | 0 | 508,000 | 0 | 508,000 |
| 予備費 | 5,000,000 | 0 | △ 87,444 | 4,912,556 | 0 | 4,912,556 |
| 収支差引額 | △ 127,668,000 | △ 22,000,000 | 0 | △ 149,668,000 | 138,329,390 | ― |

資本的収入および支出

(単位:円)

| 科　目 | 予算現額 | | | | 決算額 | 予算現額に比し増減 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 当初予算額 | 補正予算額 | 前年度事業費繰越額 | 計 | | |
| 病院収入 | 113,971,000 | 129,918,000 | 0 | 243,889,000 | 238,954,470 | △ 4,934,530 |
| 固定負債 | 85,000,000 | 128,175,000 | | 213,175,000 | 213,175,000 | 0 |
| その他資本収入 | 28,971,000 | 1,743,000 | | 30,714,000 | 25,779,470 | △ 4,934,530 |

| 科　目 | 予算現額 | | | | 決算額 | 不用額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 当初予算額 | 補正予算額 | 前年度繰越事業費充当額 | 計 | | |
| 病院費 | 113,971,000 | 129,918,000 | 0 | 243,889,000 | 238,954,470 | 4,934,530 |
| 固定資産 | 28,088,000 | 129,918,000 | 0 | 158,006,000 | 153,074,732 | 4,931,268 |
| 借入金等償還 | 85,883,000 | 0 | 0 | 85,883,000 | 85,879,738 | 3,262 |
| 収支差引額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | ― |

利益剰余金

(単位:円)

| 当期未処分利益(損失)A(a+b) | 前期繰越利益(損失) a | 当期純利益(損失) b | 利益積立金B | 利益剰余金合計(A+B) |
|---|---|---|---|---|
| 46,609,657 | △ 91,719,733 | 138,329,390 | 0 | 46,609,657 |

# Ⅲ　血液事業・血液事業特別会計決算概要

## 1　静岡県赤十字血液センター

本年度の献血者数は、138,671 人で前年度に比べ 1.2％の減となった。これは 200mL 献血者が増加したものの成分採血者・400mL 献血者が減少した事による。輸血用血液製剤の供給数は 454,655.5 単位で前年度に比べ 0.7％の減となった。これは赤血球製剤と血小板製剤の供給減によるものである。

本年度も、安全な血液製剤を安定的に供給するため、広く県民の間に献血に対する理解と協力を求めるとともに、特に継続的な推進が必要な成分献血・400mL 献血への協力と血液製剤の適正使用への協力を推進した。

### （１）　献血及び供給状況の推移

| 年度 | 献血状況 | | 供給状況 | |
|---|---|---|---|---|
| | 献血者数（人） | 対前年比（%） | 供給数（単位） | 対前年比（%） |
| 19 | 140,739 | 101.9 | 421,506.5 | 100.2 |
| 20 | 140,365 | 99.7 | 436,725.5 | 103.6 |
| 21 | 139,585 | 99.4 | 439,549.5 | 100.6 |
| 22 | 140,291 | 100.5 | 458,075.5 | 104.2 |
| 23 | 138,671 | 98.8 | 454,655.5 | 99.3 |

### （２）　献血者数及び献血率

| センター名<br>職　員　数<br>（医師） | 献血可能<br>人　口<br>平成 23 年<br>10 月現在 | 献血目標（人）<br>献血実績（人） | | | | 達成率<br>% | 献血率<br>% | 対前年比<br>献血者数<br>% |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 200mL | 400mL | 成　分 | 合　計 | | | |
| 静　岡<br>88(3) | 798,213 | 4,080 | 33,580 | 16,350 | 54,010 | 80.55 | 5.45 | 95.59 |
| | | 3,157 | 26,684 | 13,665 | 43,506 | | | |
| 沼　津<br>45(3) | 835,360 | 5,650 | 35,460 | 11,600 | 52,710 | 83.63 | 5.28 | 102.17 |
| | | 3,476 | 29,459 | 11,146 | 44,081 | | | |
| 浜　松<br>53(3) | 893,700 | 4,470 | 35,860 | 16,950 | 57,280 | 89.18 | 5.72 | 100.33 |
| | | 3,883 | 30,625 | 16,576 | 51,084 | | | |
| 合　計<br>※186(9) | 2,527,273 | 14,200 | 104,900 | 44,900 | 164,000 | 84.56 | 5.49 | 98.85 |
| | | 10,516 | 86,768 | 41,387 | 138,671 | | | |

※嘱託・パート含む実数

（３）　供給単位数及び内訳　※管外静岡に含む

| 区分 ＼ センター名 | 総供給数（単位） | 全血製剤 | 構成比 % | 赤血球製剤 | 構成比 % | 血漿製剤 | 構成比 % | 血小板製剤 | 構成比 % |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 静岡 | 159,752.5 | 0 | 0 | 58,319 | 36.5 | 24,711.5 | 15.5 | 76,722 | 48.0 |
| 沼津 | 151,076.0 | 8 | 0 | 60,452 | 40.0 | 26,111.0 | 17.3 | 64,505 | 42.7 |
| 浜松 | 143,075.0 | 0 | 0 | 52,381 | 36.6 | 22,789.0 | 15.9 | 67,905 | 47.5 |
| 合計 | 454,655.5 | 8 | 0 | 171,651 | 37.7 | 73,412.5 | 16.2 | 209,592 | 46.1 |

（４）　献血推進運動

①　愛の血液助け合い運動

平成２３年７月１日から３１日まで、国・都道府県・日本赤十字社の主催により、多数の後援団体、協賛団体の協力を得て全国一斉に行なわれた。静岡県内の「愛の血液助け合い運動」では、県健康福祉部と協力し、立て看板の設置や、ポスターや、リーフレットを各市町、事業所等関係機関に配布した。

②　全国学生献血キャンペーン

平成２３年７月に「中部ブロック統一学生サマー献血キャンペーン」、１２月には「全国学生クリスマス献血キャンペーン」が学生献血ボランティアにより展開された。県内では、静岡市・沼津市・浜松市においてイベントが開催され、学生による全国統一のキャンペーンを行う事により血液不足を補う手段の一つとし、大学生たちが若い世代に献血への理解と協力を呼びかけた。

③　はたちの献血キャンペーン

平成２４年1月１日から２月２９日まで、（社）日本放送連盟・（社）日本民営鉄道協会・（社）日本コミュニティ放送協会の協力を得、本年度もスポーツ界に留まらず全国の幅広い層に圧倒的な知名度と人気を誇る石川遼選手を起用している。若者の代表として、石川選手が２０歳を含めた同世代を中心に、献血への協力と参加を呼びかけた。県内でも、マスメディア等を通じ若者を主な対象として血液の知識、献血の重要性を訴えた。また、学生ボランティアを中心に、キャンペーンの周知が行なわれた。

④　その他の事業

安全な血液製剤の円滑な供給を図るため、「献血協賛企業活動推進保事業」及び若年層を中心とした献血者確保を目的とし「青少年等献血ふれあい事業」「若年者献血セミナー事業」「LOVE in　Action　プロジェクト」等を国庫の補助金を財源として展開した。

### ⑤　第４７回献血推進運動全国大会

平成２３年７月１４日山形県山形市の山形国際交流プラザにおいて、日本赤十字社名誉副総裁皇太子殿下の御臨席のもと、第４７回献血運動推進全国大会（主催／厚生労働省・山形県・日本赤十字社）が開催された。献血運動推進に携わる関係者が全国から集うなか、献血に対して功労のあった各種団体個人への各表彰が行われた。

### ⑥　静岡県献血推進大会

平成２３年８月１日静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」において、関係者約 400 人が出席し開催された。県民に献血への一層の協力を呼びかけるとともに、日頃、献血推進に積極的に協力し、貢献した個人や団体に、日本赤十字社有功章の伝達や厚生労働大臣表彰状及び感謝状、知事褒賞、日本赤十字社支部長感謝状の贈呈が行われた。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ・受章者 | 有功章 | 467 件 | ・受賞者 | 厚生労働大臣表彰状 | 2 件 |
| | 支部長感謝状 | 31 件 | | 厚生労働大臣感謝状 | 8 件 |
| | | | | 県知事褒賞 | 7 件 |

## （5）　骨髄データセンター事業

骨髄バンクは、国及び(財)骨髄移植推進財団が行なっているが、血液センターは骨髄データセンターとして、骨髄提供希望者に対する登録受付、HLA検査及び登録データ管理業務を実施した。

本年度も静岡県との協力により、707 人の登録者を確保した。

３月末現在（県内）8,920 人　　（全国）407,875 人

## （6） 決算概要

収益的収入および支出

（単位：円）

| 科　目 | 予算現額 | | | | 決算額 | 予算現額に比し増減 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 当初予算額 | 補正予算額 | | 計 | | |
| 血液事業収入 | 4,668,607,000 | 125,000,000 | | 4,793,607,000 | 4,823,335,301 | 29,728,301 |
| 事業収入 | 4,075,849,000 | 120,000,000 | | 4,195,849,000 | 4,185,928,122 | △ 9,920,878 |
| 事業外収入 | 36,070,000 | 0 | | 36,070,000 | 85,992,794 | 49,922,794 |
| 関連事業収入 | 2,508,000 | 0 | | 2,508,000 | 2,496,000 | △ 12,000 |
| 本支社勘定収入 | 554,180,000 | 0 | | 554,180,000 | 545,463,385 | △ 8,716,615 |
| 特別収入 | 0 | 5,000,000 | | 5,000,000 | 3,455,000 | △ 1,545,000 |
| 科　目 | 予算現額 | | | | 決算額 | 不用額 |
| | 当初予算額 | 補正予算額 | 流用増減 | 計 | | |
| 血液事業費用 | 4,620,043,000 | 255,000,000 | 0 | 4,875,043,000 | 4,779,037,891 | 96,005,109 |
| 事業費用 | 3,680,203,000 | 220,000,000 | 0 | 3,900,203,000 | 3,818,560,344 | 81,642,656 |
| 事業外費用 | 151,753,000 | 0 | 0 | 151,753,000 | 145,552,730 | 6,200,270 |
| 関連事業費用 | 2,508,000 | 0 | 0 | 2,508,000 | 2,505,208 | 2,792 |
| 本支社勘定費用 | 785,579,000 | 25,000,000 | 0 | 810,579,000 | 805,930,100 | 4,648,900 |
| 特別損失 | 0 | 10,000,000 | 0 | 10,000,000 | 6,489,509 | 3,510,491 |
| 収入支出差引額 | 48,564,000 | △ 130,000,000 | 0 | △ 81,436,000 | 44,297,410 | — |

資本的収入および支出

（単位：円）

| 科　目 | 予算現額 | | | | 決算額 | 予算現額に比し増減 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 当初予算額 | 補正予算額 | 前年度事業費繰越額 | 計 | | |
| 血液事業収入 | 135,490,000 | 0 | 0 | 135,490,000 | 20,050,399 | △ 115,439,601 |
| その他収入 | 135,490,000 | 0 | 0 | 135,490,000 | 20,050,399 | △ 115,439,601 |
| 科　目 | 予算現額 | | | | 決算額 | 不用額 |
| | 当初予算額 | 補正予算額 | 前年度繰越事業費充当額 | 計 | | |
| 血液事業支出 | 135,490,000 | 0 | 0 | 135,490,000 | 20,050,399 | 115,439,601 |
| 固定資産 | 135,490,000 | 0 | 0 | 135,490,000 | 20,050,399 | 115,439,601 |
| 収支差引額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |

利益剰余金

（単位：円）

| 当期未処分利益(損失)A(a+b) | 前期繰越利益(損失) a | 当期純利益(損失) b | 利益積立金B | 利益剰余金合計(A+B) |
|---|---|---|---|---|
| △ 401,473,204 | △ 445,770,614 | 44,297,410 | 0 | △ 401,473,204 |

# Ⅳ 資　　料

## 1　静岡県支部役職員名簿・奉仕者組織役員名簿

役　　員　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(平成 24 年 3 月 31 日現在)

| 役　　名 | 氏　　名 | 公　　　　職 |
| --- | --- | --- |
| 支　部　長 | 川 勝 平 太 | 静岡県　知事 |
| 副 支 部 長 | 鈴 木　 尚 | 静岡県市長会会長　富士市長 |
| 〃 | 遠 藤 日出夫 | 静岡県町村会会長　長泉町長 |
| 〃 | 池 谷 享 士 | 静岡県健康福祉部長 |
| 監 査 委 員 | 中 山 正 邦 | 浜松倉庫㈱代表取締役社長 |
| 〃 | 小 柳 津 茂 助 | 静岡県自治会連合会　会長 |
| 〃 | 藁 科 一 仁 | 静岡県障害者スポーツ協会　専務理事 |
| 理事・代議員 | 上 島 清 介 | 社会福祉法人静岡県社会福祉協議会　会長 |
| 代　議　員 | 鈴 木　 尚 | 静岡県市長会会長　富士市長 |
| 〃 | 山 本 博 保 | 静岡県町村会監事　清水町長 |
| 〃 | 鈴 木 秀 旺 | 静岡県協賛委員会副委員長 |
| 〃 | 鈴 木 節 子 | 静岡県地域赤十字奉仕団委員会委員長 |
| 〃 | 渡 邉 京 子 | 静岡県地域赤十字奉仕団委員会副委員長 |
| 〃 | 牧 田 歌 子 | 静岡県赤十字看護奉仕団委員会委員長 |

赤十字奉仕団支部委員会役員 （平成24年3月31日現在）

| 役　　名 | 氏　　名 | 奉仕団名 |
|---|---|---|
| 委員長 | 鈴　木　節　子 | 静岡県地域赤十字奉仕団委員会委員長<br>静岡市葵・駿河区赤十字奉仕団委員長 |
| 副委員長 | 松　永　　　博 | 静岡県無線赤十字奉仕団委員長 |
| 〃 | 上　條　美　昭 | 静岡県赤十字安全奉仕団委員長 |
| 〃 | 渡　邉　京　子 | 静岡県地域赤十字奉仕団委員会副委員長<br>富士宮市赤十字奉仕団委員長 |

（任期：平成23年4月1日～25年3月31日）

静岡県協賛委員会役員 （平成24年3月31日現在）

| 役　　名 | 氏　　名 | 協賛委員会名 |
|---|---|---|
| 会　長 | 鈴　木　健　治 | 静岡市葵・駿河区協賛委員会会長 |
| 副会長 | 鈴　木　秀　旺 | 熱海市協賛委員会会長 |
| 〃 | 秋　山　鋭次郎 | 焼津市協賛委員会会長 |
| 〃 | 小　野　　　晧 | 浜松市浜北区協賛委員会会長 |

（任期：平成23年4月1日～25年3月31日）

静岡県有功会役員 （平成24年3月31日現在）

| 役　　名 | 氏　　名 | 奉仕団名 |
|---|---|---|
| 会　長 | 大久保　芳　夫 | 静岡県有功会富士市支会会長 |
| 副会長 | 高　橋　和　雄 | 静岡県有功会浜松市天竜支会会長 |
| 〃 | 清　水　謙太郎 | 静岡県有功会焼津市支会会長 |
| 〃 | 山　口　喜　平 | 静岡県有功会三島市支会会長 |

（任期：平成23年4月1日～25年3月31日）

評　議　員　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(平成24年3月31日現在)

| 氏　　名 | 職業及び公職 | 支部長地区　選出別 | 備　　考 |
|---|---|---|---|
| 田辺信宏 | 静岡市長（県市長会長） | 静岡市　〃 | |
| 鈴木健治 | 静岡県協賛委員会会長 | 静岡市　〃 | |
| 遠藤日出夫 | 静岡県協賛委員会委員 | 静岡市　〃 | |
| 鈴木康友 | 浜松市長 | 浜松市　〃 | |
| 小木絹代 | 静岡県地域赤十字奉仕団委員会副委員長 | 浜松市　〃 | |
| 小野　皓 | 静岡県協賛委員会副会長 | 浜松市　〃 | |
| 栗原裕康 | 沼津市長 | 沼津市　〃 | |
| 後藤栄子 | 静岡県地域赤十字奉仕団委員 | 沼津市　〃 | |
| 齋藤　栄 | 熱海市長 | 熱海市　〃 | |
| 豊岡武士 | 三島市長 | 三島市　〃 | |
| 須藤秀忠 | 富士宮市長 | 富士宮市　〃 | |
| 佃　弘巳 | 伊東市長 | 伊東市　〃 | |
| 桜井勝郎 | 島田市長 | 島田市　〃 | |
| 鈴木　尚 | 富士市長 | 富士市　〃 | 本社代議員・副支部長 |
| 大久保芳夫 | 日赤静岡県有功会会長 | 富士市　〃 | |
| 渡部　修 | 磐田市長 | 磐田市　〃 | |
| 清水　泰 | 焼津市長 | 焼津市　〃 | |
| 松井三郎 | 掛川市長 | 掛川市　〃 | |
| 北村正平 | 藤枝市長 | 藤枝市　〃 | |
| 若林洋平 | 御殿場市長 | 御殿場市　〃 | |
| 原田英之 | 袋井市長 | 袋井市　〃 | |
| 石井直樹 | 下田市長 | 下田市　〃 | |
| 大橋俊二 | 裾野市長 | 裾野市　〃 | |
| 三上　元 | 湖西市長 | 湖西市　〃 | |
| 菊地　豊 | 伊豆市長 | 伊豆市　〃 | |
| 石原茂雄 | 御前崎市長 | 御前崎市　〃 | |
| 太田順一 | 菊川市長 | 菊川市　〃 | |
| 望月良和 | 伊豆の国市長 | 伊豆の国市　〃 | |
| 西原茂樹 | 牧之原市長 | 牧之原市　〃 | |
| 村松藤雄 | 森町長（県町村会長） | 周智郡　〃 | 本社代議員・副支部長 |

| 氏　　名 | 職業及び公職 | 支部長地区　選出別 | 備　　考 |
|---|---|---|---|
| 太田長八 | 賀茂郡町村会長　東伊豆町長 | 賀茂郡　〃 | |
| 森　延彦 | 田方郡町村会長　函南町長 | 田方郡　〃 | |
| 山本博保 | 駿東郡町村会長　清水町長 | 駿東郡　〃 | |
| 田村典彦 | 榛原郡町村会長　吉田町長 | 榛原郡　〃 | |
| 鈴木節子 | 静岡県地域赤十字奉仕団委員会委員長 | 支部長選出 | 本社代議員 |
| 渡邉京子 | 静岡県地域赤十字奉仕団委員会副委員長 | 〃 | 本社代議員 |
| 牧田歌子 | 静岡県赤十字看護奉仕団委員長 | 〃 | 本社代議員 |
| 鈴木秀旺 | 静岡県協賛委員会副会長 | 〃 | 本社代議員 |
| 上島清介 | （福）静岡県社会福祉協議会会長 | 〃 | 本社理事・本社代議員 |
| 櫻井　透 | （福）静岡県共同募金会会長 | 〃 | |
| 中山正邦 | 浜松倉庫㈱代表取締役社長 | 〃 | 監査委員 |
| 田中　潤 | 県青少年赤十字指導者協議会長 | 〃 | |

参　与　　（平成24年3月31日現在）

| 氏　　名 | 職業及び公職 |
|---|---|
| 大石俊彦 | 元日本赤十字社静岡県支部事務局長 |
| 高橋とみ | 元静岡県地域赤十字奉仕団委員会委員長 |

幹部職員

(平成24年3月31日現在)

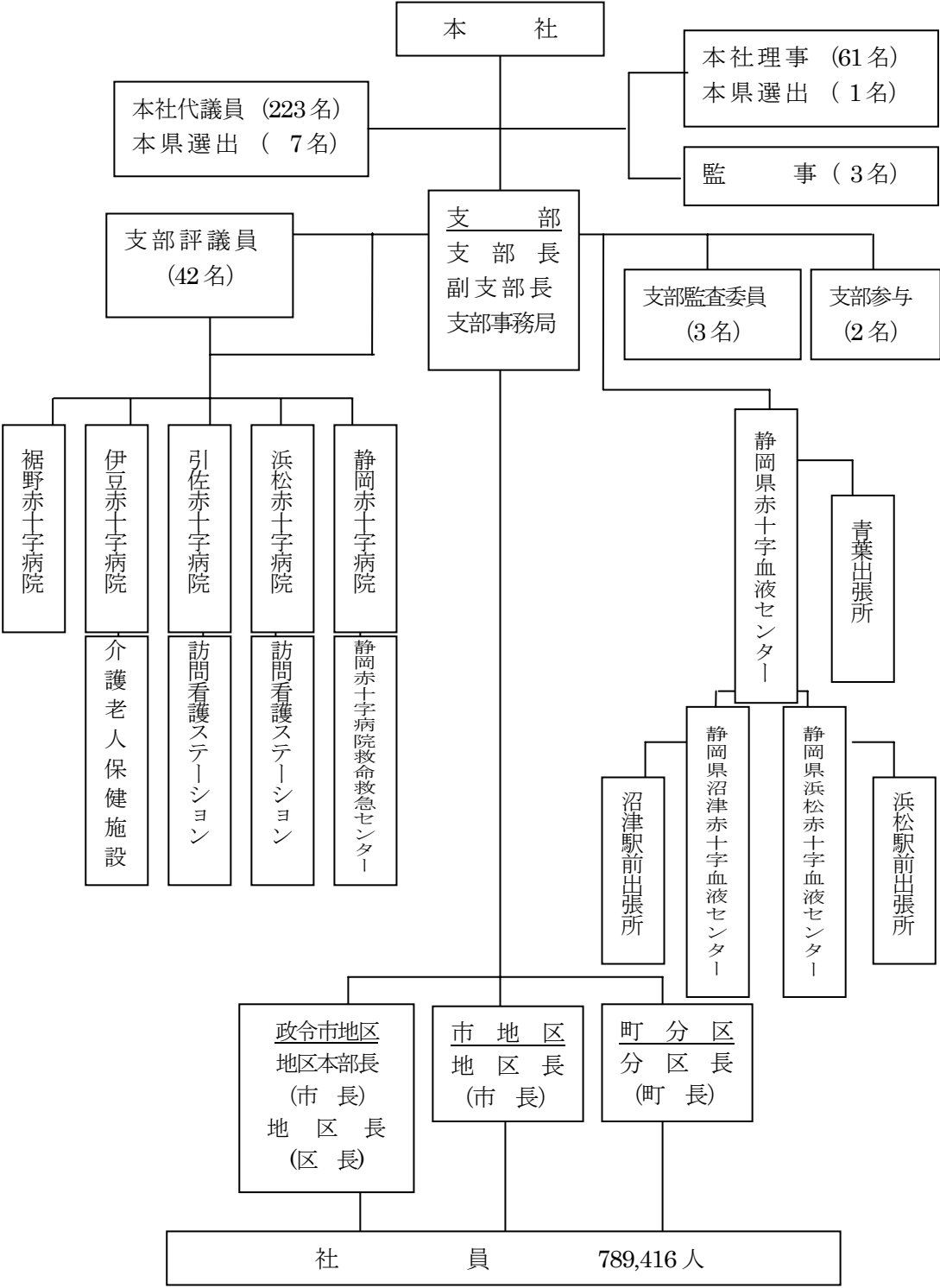
| 施設名 | 職名 | 氏名 |
|---|---|---|
| 日本赤十字社静岡県支部 | 事務局長 | 望月利孝 |
| | 総務課長 | 落合　肇 |
| | 組織振興課長 | 梶山和彦 |
| | 事業推進課長 | 上野秀実 |
| | 参事 | 脇田朱己 |
| 静岡赤十字病院 | 院長 | 行木英生 |
| | 副院長 | 磯部　潔 |
| | 副院長 | 小張昌宏 |
| | 副院長<br>（兼）看護部長 | 望月律子 |
| | 事務部長 | 安本惠洋 |
| 浜松赤十字病院 | 院長 | 奥田康一 |
| | 副院長 | 俵原　敬 |
| | 副院長 | 鈴鹿知直 |
| | 事務部長 | 中村久男 |
| | 看護部長 | 二橋祥子 |
| 引佐赤十字病院 | 院長 | 山本隆久 |
| | 事務部長 | 桂　幸正 |
| | 看護部長 | 田中昭子 |
| 伊豆赤十字病院 | 院長 | 板東隆文 |
| | 事務部長 | 宮澤武久 |
| | 看護部長 | 間淵元子 |
| 裾野赤十字病院 | 院長 | 清水　眞 |
| | 事務部長 | 鈴木啓久 |
| | 看護部長 | 今村直江 |
| 静岡県赤十字血液センター | 所長 | 南澤孝夫 |
| | 事務部長 | 牧野勝美 |
| 静岡県沼津赤十字血液センター | 所長 | 丸岡　充 |
| | 事務部長 | 西島明信 |
| 静岡県浜松赤十字血液センター | 所長（兼） | 南澤孝夫 |
| | 事務部長 | 大野耕一郎 |

## ２　平成 23 年度主要行事一覧

| 月　日 | 行　　　事　　　名 | 開催地・開催場所 |
|---|---|---|
| 4 月 16 日 | 静岡県赤十字看護奉仕団総会 | 静岡県支部 |
| 4 月 18 日 | 静岡県青少年赤十字指導者協議会総会・評議員会 | 静岡県支部 |
| 4 月 21 日 | 静岡県協賛委員会 | 静岡県支部 |
| 4 月 25 日 | 静岡県地域赤十字奉仕団委員会 | 静岡県支部 |
| 4 月 26 日 | 地区分区新任実務担当者研修会 | 静岡県支部 |
| 5 月 14 日 | 世界赤十字デーキャンペーン | 静岡市葵スクエア |
| 5 月 26 日 | 支部監査委員監査 | 静岡県支部 |
| 5 月 27 日 | 静岡県有功会総会 | クーポール会館 |
| 5 月 29 日 | 静岡県青少年赤十字大会 | グランシップ |
| 6 月 7 日 | 静岡県青少年赤十字校長（教頭）研修会 | 静岡県支部 |
| 6 月 9～10 日 | 静岡県青少年赤十字賛助奉仕団総会 | 浜松市 |
| 6 月 13 日 | 支部評議員会 | 静岡県支部 |
| 6 月 17 日 | 日本赤十字社理事会・代議員会 | 東京都 |
| 6 月 21 日 | 静岡県青少年赤十字指導担当者研修会 | 静岡県支部 |
| 6 月 28～29 日 | 地域奉仕団リーダーシップ研修会（東部） | ニューウェルサンピア沼津 |
| 7 月 5～6 日 | 地域奉仕団リーダーシップ研修会（西部） | つま恋 |
| 7 月 14 日 | 献血運動推進全国大会 | 山形県 |
| 7 月 28 日 | 赤十字奉仕団静岡県支部委員会 | 静岡県支部 |
| 8 月 1 日 | 静岡県献血推進大会 | グランシップ |
| 8 月 1 日～2 日 | 静岡県青少年赤十字東部地区ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟﾄﾚｰﾆﾝｸﾞｾﾞﾝﾀｰ | 静岡市 |
| 8 月 10～12 日 | 静岡県青少年赤十字東部地区ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟﾄﾚｰﾆﾝｸﾞｾﾞﾝﾀｰ | 長泉町 |
| 8 月 11 日 | 静岡県青少年赤十字西部地区ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟﾄﾚｰﾆﾝｸﾞｾﾝﾀｰ | 浜松市 |
| 8 月 16 日～18 日 | 静岡県青少年赤十字高等学校ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟﾄﾚｰﾆﾝｸﾞｾﾝﾀｰ | 朝霧野外活動センター |
| 8 月 22 日～28 日 | 青少年赤十字国際交流事業 | マレーシア |
| 8 月 28 日 | 静岡県総合防災訓練 | 島田市 |
| 9 月 1 日 | 静岡県災害対策本部運用訓練 | 静岡県庁 |
| 9 月 10 日 | 静岡県青少年赤十字高校協議会県外研修 | 愛知県 |
| 9 月 10 日 | 救急法競技会公式練習会 | 支部・浜松血液Ｃ・沼津血液Ｃ |

| 月　日 | 行　　　　事　　　　名 | 開催地・開催場所 |
|---|---|---|
| 10 月 4～5 日 | 県内赤十字施設中堅職員研修会 | 静岡県支部 |
| 10 月 4～7 日 | 有功会海外視察研修 | 大韓民国 |
| 10 月 21 日 | 静岡県地域赤十字奉仕団委員会 | 静岡県支部 |
| 10 月 27～28 日 | 紺綬・有功会会長協議会総会 | 愛媛県 |
| 11 月 1～2 日 | 第３ブロック支部合同災害救護訓練 | 富山県 |
| 11 月 9～10 日 | 県内赤十字施設係長研修 | 静岡県支部 |
| 11 月 14 日 | 静岡県協賛委員会 | 静岡県支部 |
| 11 月 15 日 | 愛知県赤十字奉仕団・静岡県赤十字奉仕団交流会 | 静岡県支部 |
| 11 月 17 日 | 地区分区担当者会議 | 静岡県支部 |
| 11 月 23・28 日 | 救急法・水上安全法・幼児安全法指導員研修会 | 静岡県支部 |
| 12 月 1～25 日 | NHK 海外たすけあいキャンペーン | 静岡市ほか県下各地 |
| 12 月 18・20・23 日 | 救急法・水上安全法・幼児安全法指導員研修会 | 静岡県支部 |
| 1 月 21 日 | 救急法競技会 | 静岡市 |
| 2 月 6 日 | 支部評議員会 | 静岡県支部 |
| 2 月 10 日 | 管内施設メンタルヘルス研修会 | 静岡県支部 |
| 2 月 17 日 | 静岡県地域赤十字奉仕団委員会 | 静岡県支部 |
| 2 月 17・20～23 日 | 救急法指導員養成講習 | 藤枝市 |
| 3 月 2 日～3 日 | 健康生活支援講習指導員研修会 | 静岡県支部 |
| 3 月 5 日 | 赤十字奉仕団支部委員会 | 静岡県支部 |
| 3 月 8 日～9 日 | 有功会女性クラブ視察研修 | 宮城県・岩手県 |
| 3 月 16 日 | 赤十字社員増強運動打ち合わせ会議 | 静岡県支部 |
| 3 月 22 日 | 支部災害対策本部図上訓練 | 静岡県支部 |
| 3 月 24 日 | 赤十字飛行隊集合訓練 | 静岡市清水区 |

## 3　日本赤十字社静岡県支部の機構及び沿革

(1)　機　構　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(平成24年3月31日現在)

(2) 沿　革

明治22年10月　静岡市駿府町に日本赤十字社静岡委員部発足
明治28年 1月　静岡委員部を静岡支部と改称
昭和 8年 6月　日本赤十字社静岡県支部病院〈静岡赤十字病院〉開設
昭和 9年 7月　日本赤十字社静岡支部伊豆診療所〈伊豆赤十字病院〉開設
昭和13年 3月　日本赤十字社静岡支部浜松診療所〈浜松赤十字病院〉開設
昭和17年11月　日本赤十字社静岡支部中駿診療所〈中駿赤十字病院〉開設
昭和18年 1月　静岡赤十字病院発足
昭和20年 4月　浜松赤十字病院発足
昭和21年 6月　日本赤十字静岡支部引佐診療所〈引佐赤十字病院〉開設
昭和26年 3月　引佐赤十字病院発足
昭和26年 8月　伊豆赤十字病院発足
昭和27年 7月　中駿赤十字病院発足
昭和27年10月　静岡支部を静岡県支部と改称
昭和28年 9月　静岡県支部静岡市追手町に移転
昭和38年10月　浜松療護園の経営管理を県より受託〈浜松リハビリテーションセンター〉
昭和39年10月　静岡県赤十字会館竣工
昭和39年11月　静岡県赤十字血液銀行〈静岡県赤十字血液センター〉開設
昭和39年12月　静岡赤十字血液センター発足
昭和40年 7月　静岡県赤十字血液センター浜松出張所〈浜松赤十字血液センター〉開設
昭和45年 4月　静岡県赤十字血液センター沼津出張所〈沼津血液センター〉開設
昭和45年 5月　浜松赤十字血液センター独立開設
昭和57年 3月　静岡県赤十字血液センター 静岡市北安東に新築（移転）工事竣工
昭和60年 2月　静岡県赤十字病院本館増改築工事竣工
昭和61年 4月　浜松療護園を浜松リハビリテーションセンターに改称
昭和63年 3月　静岡県沼津赤十字血液センター新築工事竣工
昭和63年 5月　浜松赤十字血液センター浜松駅出張所〈メイ・ワン献血ルーム〉開設
平成 2年 4月　静岡県赤十字血液センター青葉出張所〈あおば献血ルーム〉開設
平成 4年 5月　静岡赤十字病院救命救急センター開設
平成 7年 3月　静岡県赤十字看護専門学校 静岡市与一に新築移転
平成 8年 3月　引佐赤十字病院新築・改装工事竣工
平成 8年10月　静岡県沼津赤十字血液センター沼津駅前出張所〈献血ルームパレット〉　開設
平成 8年11月　静岡赤十字病院災害拠点病院〈地域災害医療センター〉に県より指定
平成 9年 3月　伊豆赤十字病院新改築工事竣工
平成 9年 6月　静岡赤十字病院別館増改築工事竣工
平成 9年 7月　中駿赤十字病院を裾野赤十字病院に改称
平成 9年12月　裾野赤十字病院増改築工事竣工
平成10年 3月　日本赤十字社静岡県支部新社屋建築工事竣工
平成11年 1月　浜松赤十字血液センター耐震総改築工事竣工
平成12年 3月　浜松赤十字血液センター浜松駅前出張所〈献血ルームみゅうず〉移転開設
平成12年 4月　県内血液センターの一体化に伴い、浜松赤十字血液センターを静岡県浜松赤十字血液センターと改称
平成13年 3月　静岡県赤十字血液センター青葉出張所〈献血ルームあおば〉移転開設
平成14年 3月　浜松リハビリテーションセンター廃園
平成14年 4月　伊豆赤十字介護老人保健施設グリーンズ修善寺開設

平成15年 3月 静岡県沼津赤十字血液センター沼津駅前出張所〈献血ルームエイブル〉 移転開設

平成16年 3月 静岡県赤十字血液センター事務棟増築改修工事竣工

平成17年 3月 静岡県赤十字看護専門学校閉校

平成19年11月 浜松赤十字病院 浜松市浜北区小林に移転開院

平成24年 3月 血液事業のブロックセンター設置に伴い静岡県沼津赤十字血液センター及び静岡県浜松赤十字血液センターを廃止（平成24年4月より事業所として運営）

## 4　日本赤十字社静岡県支部施設一覧

(平成 24 年 3 月 31 日現在)

| 施　設　名 | 所　　　在　　　地 | 電 話 番 号 |
|---|---|---|
| 日本赤十字社静岡県支部 | 〒420－0853<br>静岡市葵区追手町 44－17 | 054 (252) 8131 |
| 静　岡　赤　十　字　病　院 | 〒420－0853<br>静岡市葵区追手町 8－2 | 054 (254) 4311 |
| 静岡赤十字病院救命救急センター | 〒420－0853<br>静岡市葵区追手町 8－2 | 054 (253) 8381 |
| 浜　松　赤　十　字　病　院 | 〒434-8533<br>浜松市浜北区小林 1088-1 | 053 (401) 1111 |
| 訪問看護ステーション高林 | 〒430－0907<br>浜松市中区高林 1－8－10 | 053 (475) 8839 |
| 日赤訪問看護ステーション | 〒434－0026<br>浜松市浜北区東美薗 994 | 053 (585) 3676 |
| 引　佐　赤　十　字　病　院 | 〒431－2213<br>浜松市北区引佐町金指 1020 | 053 (542) 0115 |
| 引佐赤十字訪問看護ステーション<br>コ　　ス　　モ　　ス | 〒431－2213<br>浜松市北区引佐町金指 1276－1 | 053 (542) 3830 |
| 伊　豆　赤　十　字　病　院 | 〒410－2413<br>伊豆市小立野 100 | 0558 (72) 2148 |
| 伊豆赤十字介護老人保健施設<br>グ　リ　ー　ン　ズ　修　善　寺 | 〒410－2413<br>伊豆市小立野 100－2 | 0558 (74) 3300 |
| 裾　野　赤　十　字　病　院 | 〒410－1118<br>裾野市佐野 713 | 055 (992) 0008 |
| 静岡県赤十字血液センター | 〒420－0881<br>静岡市葵区北安東 4－27－2 | 054 (247) 7141 |
| 静岡県赤十字血液センター<br>青葉出張所（献血ルーム・あおば） | 〒420－0035<br>静岡市葵区七間町 8－20　毎日江崎ビル 6F | 054 (272) 5858 |
| 静岡県沼津赤十字血液センター | 〒410－0302<br>沼津市東椎路春ノ木 567 | 055 (924) 6611 |
| 静岡県沼津赤十字血液センター<br>沼津駅前出張所（献血ルーム･エイブル） | 〒410－0801<br>沼津市大手町 3-1-3　エイブルコア 6F | 055 (951) 8080 |
| 静岡県浜松赤十字血液センター | 〒435－0003<br>浜松市東区中里町 1013 | 053 (422) 1113 |
| 静岡県浜松赤十字血液センター<br>浜松駅前出張所（献血ルーム･みゅうず） | 〒430－0928<br>浜松市中区板屋町 110－5<br>浜松第一生命日通ビル 1F | 053 (413) 2070 |

## 5　医療施設概況

（平成24年3月31日現在）

| 病院名 | | 静岡赤十字病院 | 浜松赤十字病院 | 引佐赤十字病院 | 伊豆赤十字病院 | 裾野赤十字病院 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 所在地 | | 静岡市葵区追手町<br>８－２ | 浜松市浜北区<br>小林1088-1 | 浜松市北区引佐町<br>金指1020 | 伊豆市小立野100 | 裾野市佐野713 |
| 開設年月日 | | 昭和8年6月11日 | 昭和13年3月17日 | 昭和21年6月1日 | 昭和9年7月1日 | 昭和17年11月1日 |
| 病床数 | 許可病床 | 517床 | 312床 | 99床 | 94床 | 116床 |
| | 実働病床 | 447床 | 312 | 99床 | 94床 | 105床 |
| 診療科 | | 25科 | 20科 | 3科 | 6科 | 6科 |
| | | 内科<br>血液内科<br>糖尿病・代謝内科<br>精神神経科<br>神経内科<br>呼吸器科<br>消化器科<br>循環器科<br>小児科<br>呼吸器外科<br>外科<br>整形外科<br>形成外科<br>脳神経外科<br>心臓血管外科<br>皮膚科<br>泌尿器科<br>産婦人科<br>眼科<br>耳鼻咽喉科<br>気管食道科<br>放射線科<br>ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科<br>麻酔科<br>救急科 | 内科<br>呼吸器内科<br>消化器内科<br>循環器内科<br>小児科<br>外科<br>肛門外科<br>整形外科<br>脳神経外科<br>形成外科<br>皮膚科<br>泌尿器科<br>産婦人科<br>眼科<br>耳鼻いんこう科<br>麻酔科<br>放射線科<br>ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科<br>歯科口腔外科<br>精神科 | 内科<br>整形外科<br>ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科 | 内科<br>小児科<br>外科<br>整形外科<br>産婦人科<br>泌尿器科 | 内科<br>外科<br>整形外科<br>産婦人科<br>脳神経外科<br>放射線科 |
| 一般病棟入院基本料 | | 7対1 | 7対1 | ― | 10対1 | 10対1 |
| 救急告示日 | | 昭和41年3月31日 | 昭和41年10月1日 | ― | 昭和41年11月25日 | 昭和43年11月29日 |